

第10章 社会参加と意識

1 社会参加

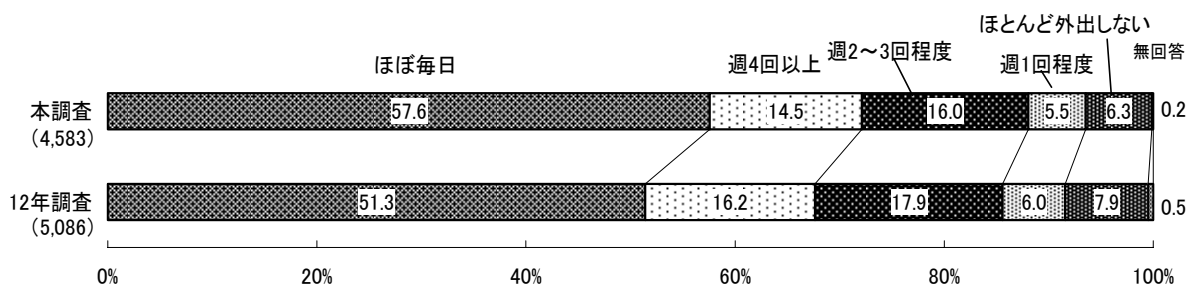
(1) 外出の頻度

ほぼ毎日外出する高齢者が増加し、ほとんど外出しない高齢者が減少した。

通常どのくらいの頻度で外出するのかを尋ねたところ、「ほぼ毎日」と答えた高齢者が57.6%と最も多く、次いで「週2～3回程度」が16.0%となっている。(図10-1)

12年度調査と比べると、ほぼ毎日外出する人は6.3ポイント増加し、ほとんど外出しない高齢者は1.6ポイント減少した。

図10-1 外出の頻度



性別でみると、ほぼ毎日外出する男性が62.3%、女性が53.7%で男性の方が外出する頻度が8.6ポイント高い。

また、年齢階級別でみると、ほとんど外出しない高齢者は、年齢が上がるにつれて割合が高くなっている。(表10-1)

表10-1 外出の頻度－性、年齢階級別

		総数	ほぼ毎日	上週4回以上	週2～3回程度	週1回程度	ほとんど外出しない	無回答
総数		100.0 (4,583)	57.6	14.5	16.0	5.5	6.3	0.2
性別	男	100.0 (2,052)	<u>62.3</u>	13.5	14.2	5.1	4.7	0.2
	女	100.0 (2,531)	<u>53.7</u>	15.4	17.3	5.8	7.6	0.1
年齢階級別	65～69歳	100.0 (1,279)	69.6	13.9	10.9	3.4	<u>2.0</u>	0.3
	70～74歳	100.0 (1,335)	62.2	15.4	14.4	5.0	<u>3.0</u>	–
	75～79歳	100.0 (955)	53.3	16.4	19.3	5.3	<u>5.4</u>	0.2
	80～84歳	100.0 (617)	44.4	11.0	24.5	8.1	<u>12.0</u>	–
	85歳以上	100.0 (397)	34.0	14.6	16.4	10.1	<u>24.7</u>	0.3

健康意識別でみると、よいと答えた高齢者は、ほぼ毎日外出している割合が高い。一方よくない、あまりよくないと答えている高齢者ほど、ほとんど外出しない割合が高い。(表 10-2)

動作能力類型別でみると、ほぼ毎日外出する高齢者は、比較的重い障害のある高齢者でも、ほぼ毎日外出が 44.1%となっている。週 4 回以上の 19.4%と合わせると、6 割を超えている。

表 10-2 外出の頻度－健康意識、動作能力類型別

		総 数	ほ ぼ 毎 日	上 週 4 回 以 上	回 週 2 度 3 回	週 1 回 程 度	い 外 ほ と ん ど 外	無 回 答
総数		100.0 (4,583)	57.6	14.5	16.0	5.5	6.3	0.2
健康 意 識 別	よい	100.0 (1,201)	<u>72.4</u>	12.4	10.2	3.3	1.5	0.1
	まあよい	100.0 (830)	58.7	16.3	17.5	4.5	2.9	0.2
	ふつう	100.0 (1,433)	58.1	16.3	16.3	5.0	4.1	0.1
	あまりよくない	100.0 (909)	42.7	13.1	20.4	9.1	<u>14.7</u>	－
	よくない	100.0 (205)	27.3	14.6	21.5	9.3	<u>26.3</u>	1.0
動 作 能 力 類 型 別	ねたきり等の高齢者	100.0 (381)	7.9	8.4	21.8	15.7	45.9	0.3
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (93)	<u>44.1</u>	<u>19.4</u>	17.2	6.5	12.9	－
	軽い障害のある高齢者	100.0 (810)	50.6	13.8	21.9	8.8	4.8	0.1
	障害のない高齢者	100.0 (3,299)	65.4	15.3	13.8	3.5	1.9	0.2

近所づきあいの程度別でみると、つきあいがない高齢者は、ほとんど外出しないが 29.4%で、他の近所づきあいをしている高齢者より割合が高い。(表 10-3)

表 10-3 外出の頻度－近所づきあいの程度別

	総 数	ほ ぼ 毎 日	週 4 回 以 上	回 週 2 度 3 回	週 1 回 程 度	出 ほ と ん ど 外	無 回 答
総数	100.0 (4,583)	57.6	14.5	16.0	5.5	6.3	0.2
お互いに訪問し合う人がいる	100.0 (1,194)	65.4	11.7	14.2	4.4	<u>4.2</u>	0.1
立ち話をする程度の人 がいる	100.0 (1,713)	60.8	16.4	16.1	4.3	<u>2.4</u>	－
あいさつをする程度の人 がいる	100.0 (1,287)	53.8	16.0	16.4	7.0	<u>6.8</u>	－
つきあいがない	100.0 (377)	31.8	10.3	18.8	9.5	<u>29.4</u>	－

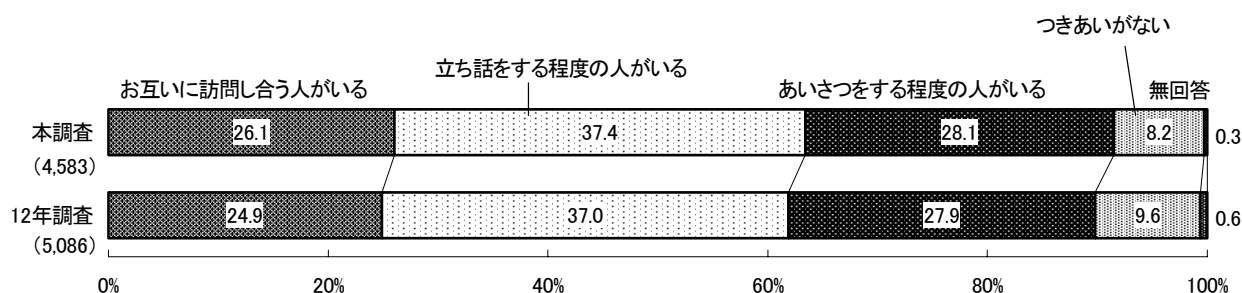
(2) 近所づきあいの程度

近所とのつきあいがない人が減少傾向。

近所づきあいの程度について尋ねたところ、「立ち話をする程度の人がいる」高齢者が37.4%と最も多く、次いで「あいさつをする程度の人がいる」が28.1%、「お互いに訪問しあう人がある」が26.1%、「つきあいがない」が8.2%と続いている。(図 10-2)

12年調査と比較すると、つきあいがない高齢者は1.4ポイント減少した。

図 10-2 近所づきあいの程度



性別でみると、お互いに訪問し合う人がいる高齢者は、女性は 33.0%で男性の 17.5%よりも 15.5 ポイント割合が高い。(表 10-4)

年齢階級別でみると、おおむね年齢が高くなるにつれて、「つきあいがいい」の割合が高くなっている。

世帯構成（世代別）でみると、単身世帯（ひとりぐらし）では、「お互いに訪問しあう人がいる」が 32.0%で最も高く、一世代世帯（夫婦のみ）は、「立ち話をする程度の人がいる」が 40.3%と最も高い。

表 10-4 近所づきあいの程度－性、年齢階級、世帯構成（世代別）

		総 数	るう訪お 人問互 がしい い合に	るのす立 人るち が程話 い度を	い度をあ るのすい 人るさ が程つ	がつ ないあ い	無 回 答
総数		100.0 (4,583)	26.1	37.4	28.1	8.2	0.3
性 別	男	100.0 (2,052)	<u>17.5</u>	36.4	36.5	9.3	0.3
	女	100.0 (2,531)	<u>33.0</u>	38.2	21.3	7.3	0.2
年 齢 階 級 別	65～69歳	100.0 (1,279)	24.4	39.6	28.4	<u>7.1</u>	0.5
	70～74歳	100.0 (1,335)	27.0	39.9	27.5	<u>5.5</u>	0.1
	75～79歳	100.0 (955)	27.3	38.5	26.1	<u>8.0</u>	0.1
	80～84歳	100.0 (617)	25.4	33.7	30.0	<u>10.5</u>	0.3
	85歳以上	100.0 (397)	26.2	24.4	31.0	<u>17.9</u>	0.5
世 帯 構 成 （ 世 代 別 ）	単身世帯（ひとりぐらし）	100.0 (863)	<u>32.0</u>	29.7	26.3	11.7	0.3
	一世代世帯（夫婦のみ）	100.0 (1,700)	24.1	<u>40.3</u>	30.1	5.4	0.1
	二世代世帯（親と子）	100.0 (1,294)	24.7	39.7	27.0	8.2	0.4
	三世代世帯（親と子と孫）	100.0 (619)	27.9	36.5	25.7	9.5	0.3

健康意識別でみると、よいと思っている高齢者は、「お互いに訪問し合う人がある」が29.0%と高く、よくないと思っている高齢者は、「つきあいがいい」が22.4%と高くなっている。（表10-5）

動作能力類型別でみると、ねたきり等の高齢者（ねたきり高齢者、ねたきりに近い高齢者）は、「つきあいがいい」の割合が最も高く、35.7%であった。

表10-5 近所づきあいの程度－健康意識、動作能力類型別

		総 数	るう訪お 人問互 がしい い合に	るのす立 人るち が程話 い度を	い度をあ るのすい 人るさ が程つ	がつ ないあ い	無 回 答
総数		100.0 (4,583)	26.1	37.4	28.1	8.2	0.3
健康 意 識 別	よい	100.0 (1,201)	<u>29.0</u>	38.8	26.5	5.4	0.3
	まあよい	100.0 (830)	26.4	40.0	28.4	4.9	0.2
	ふつう	100.0 (1,433)	25.5	41.0	27.5	5.8	0.2
	あまりよくない	100.0 (909)	25.1	29.7	29.5	15.6	0.1
	よくない	100.0 (205)	15.6	27.3	33.7	<u>22.4</u>	1.0
動 作 能 力 類 型 別	ねたきり等の高齢者	100.0 (381)	18.1	13.4	32.0	<u>35.7</u>	0.8
	比較的重い障害のある 高齢者	100.0 (93)	26.9	31.2	28.0	14.0	－
	軽い障害のある高齢者	100.0 (810)	25.3	35.2	31.4	8.0	0.1
	障害のない高齢者	100.0 (3,299)	27.1	40.9	26.8	4.9	0.2

(3) 1年間に行った活動

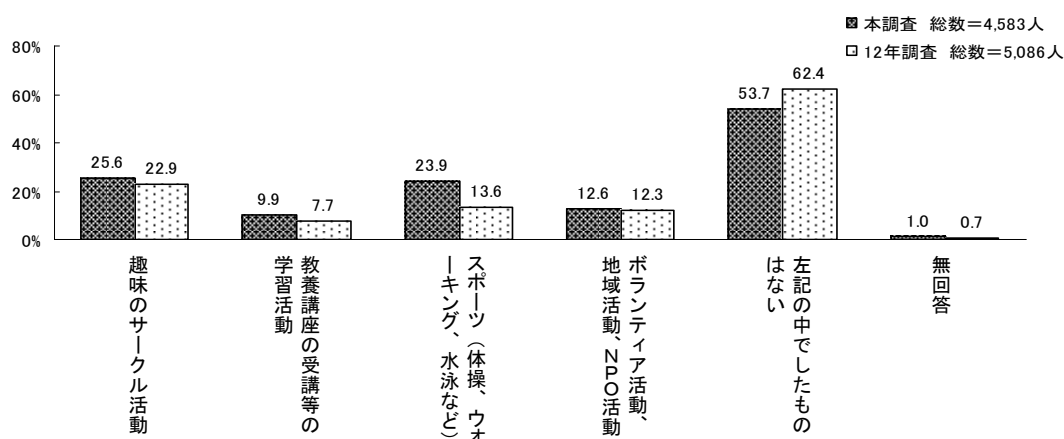
1年間に行った活動は、「スポーツ」が大幅に増加、他の活動も増加。

1年間にどのような活動を行ったかを尋ねたところ、「趣味のサークル活動」が25.6%と最も多く、次いで「スポーツ（体操・ウォーキング・水泳）」が23.9%、「ボランティア活動、地域活動、NPO活動」が12.6%、「教養講座の受講等の学習活動」が9.9%となっている。

12年調査と比べ、「スポーツ」は10.3ポイント、「趣味のサークル活動」は2.7ポイント、「教養講座の受講等の学習活動」は2.2ポイント増加し、「左記の中でしたものはない」は8.7ポイント減少したことから、活動的な高齢者が増えていることがうかがえる。

(図10-3)

図10-3 1年間に行った活動－12年調査との比較



性別でみると、男性では「スポーツ」が27.1%、女性が21.3%で、男性が女性より5.8ポイント高い。一方、女性では「趣味のサークル活動」が29.5%、男性が20.8%と女性が男性より8.7ポイント高くなっている。(表10-6)

表10-6 1年間に行った活動(複数回答)－性、年齢階級別

		総数	趣味のサークル活動	教養講座の受講等の学習活動	スポーツ	NPO活動、ボランティア活動、地域活動	左記の中でしたものはない	無回答
総数		100.0 (4,583)	25.6	9.9	23.9	12.6	53.7	1.0
性別	男	100.0 (2,052)	20.8	8.9	27.1	14.6	52.7	1.1
	女	100.0 (2,531)	29.5	10.8	21.3	10.9	54.4	1.0
年齢階級別	65～69歳	100.0 (1,279)	28.9	11.7	34.2	15.9	42.8	1.6
	70～74歳	100.0 (1,335)	27.8	11.2	25.9	15.1	49.9	0.9
	75～79歳	100.0 (955)	26.9	10.7	21.2	11.5	54.7	0.5
	80～84歳	100.0 (617)	22.2	7.0	12.6	7.0	66.5	1.0
	85歳以上	100.0 (397)	10.1	3.0	8.3	4.8	79.1	1.3

地域別でみると、区部より市町村部のほうが、1年間行った活動（趣味のサークル活動、教養講座の受講等の学習活動、スポーツ、ボランティア活動・地域活動・NPO 活動）の割合は高く、「左記の中でしたものはない」の割合は低い。（表 10-7）

表 10-7 1 年間に行った活動（複数回答）－地域別

	総 数	動 趣 味 の サ ー ク ル 活	の 教 養 講 座 の 受 講 等 の 学 習 活 動	ス ポ ー ツ	N 動 ボ P O 、 地 域 活 動 、 活	の 左 は な い の 中 で し た も	無 回 答
総数	100.0 (4,583)	25.6	9.9	23.9	12.6	53.7	1.0
区部 計	100.0 (3,073)	<u>24.6</u>	<u>8.9</u>	<u>22.3</u>	<u>11.6</u>	<u>55.5</u>	1.1
区中央部	100.0 (221)	23.5	8.6	27.1	14.5	49.3	3.6
区南部	100.0 (387)	25.1	10.3	24.0	15.5	52.7	0.8
区西南部	100.0 (405)	29.6	7.2	22.2	14.8	53.1	0.7
区西部	100.0 (360)	27.8	13.3	24.2	10.0	52.8	1.1
区西北部	100.0 (706)	23.9	10.2	22.2	10.8	56.1	0.3
区東北部	100.0 (559)	19.1	5.7	18.2	10.0	59.4	2.1
区東部	100.0 (435)	25.3	7.6	22.1	8.3	59.3	0.7
市・町・村部 計	100.0 (1,510)	<u>27.7</u>	<u>12.1</u>	<u>27.3</u>	<u>14.6</u>	<u>50.0</u>	0.9
西多摩	100.0 (191)	27.2	8.4	24.1	17.3	51.3	1.0
南多摩	100.0 (417)	26.4	11.5	32.4	15.8	47.5	0.2
北多摩西部	100.0 (218)	30.7	14.2	28.9	19.3	45.0	2.3
北多摩南部	100.0 (370)	27.0	11.9	22.2	10.5	55.4	1.1
北多摩北部	100.0 (314)	28.7	14.0	27.4	13.1	49.7	0.3

収入のある仕事の有無別でみると、仕事をしている高齢者はすべての活動において、仕事をしていない高齢者より割合が高い。(表 10-8)

年収別でみると、年収 50 万円未満の高齢者と年収 100 万以上 150 万円未満は、「左記の中でしたことはない」が 6 割を超えている。

表 10-8 1 年間に行った活動(複数回答)－収入のある仕事の有無、年収別

		総 数	動 趣 味 の サ ー ク ル 活	の 教 養 講 座 の 受 講 等	ス ポ ー ツ	N 動 P O 活 域 活 動 、 ボ ラン テ ィ ア 、 活	の 左 は 記 の 中 で し た も
総数		100.0 (4,583)	25.6	9.9	23.9	12.6	53.7
有 無 別	収入のある 仕事をしている	100.0 (1,255)	26.0	11.6	27.9	17.5	<u>46.8</u>
	収入のない 仕事をしていない	100.0 (3,322)	25.5	9.3	22.5	10.7	<u>56.3</u>
年 収 別	50万円未満	100.0 (411)	22.1	7.1	20.7	10.9	<u>60.3</u>
	50万円以上 100万円未満	100.0 (781)	27.7	9.2	21.6	10.2	57.1
	100万円以上 150万円未満	100.0 (588)	25.5	7.3	16.8	9.4	<u>60.2</u>
	150万円以上 200万円未満	100.0 (462)	25.5	8.9	18.8	11.5	58.2
	200万円以上 250万円未満	100.0 (496)	24.0	8.1	23.6	10.5	55.2
	250万円以上 300万円未満	100.0 (497)	22.7	12.9	25.6	16.1	52.1
	300万円以上 500万円未満	100.0 (646)	31.1	14.1	32.8	15.6	41.2
	500万円以上 700万円未満	100.0 (205)	23.9	12.2	31.7	14.1	46.8
	700万円以上 1, 000万円未満	100.0 (122)	26.2	13.1	40.2	23.0	35.2
	1, 000万円以上	100.0 (142)	31.7	16.2	36.6	21.1	41.5

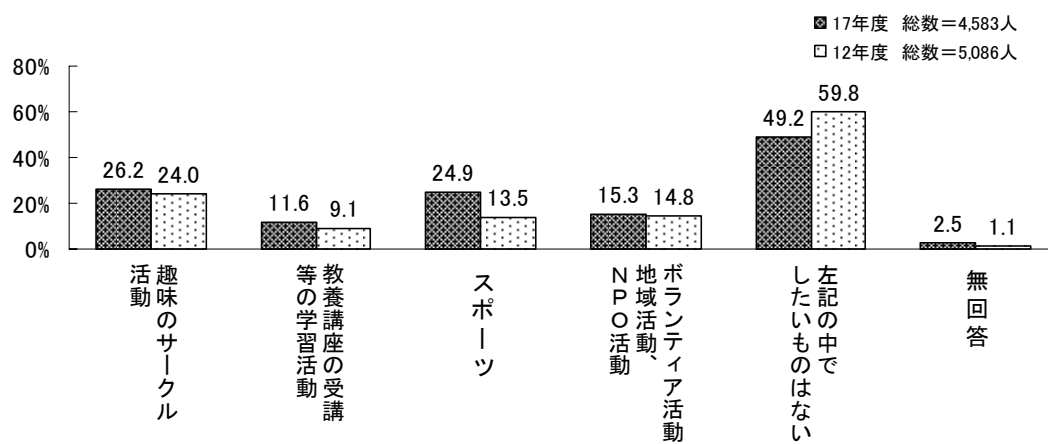
(4) 今後したい活動

今後したい活動として「趣味のサークル活動」「スポーツ」が人気。

今後したい活動を尋ねたところ、「趣味のサークル活動」が26.2%、「スポーツ(体操、ウォーキング、水泳など)」が24.9%と続いている。(図10-4)

12年調査と比べると、「スポーツ」が11.4ポイント増加したのをはじめ、ほかの活動もすべて割合が増加している。一方で、「左記の中でしたいものはない」が10.6ポイント減少している。

図10-4 今後したい活動(複数回答)



性別でみると、男性は「スポーツ」が27.7%と女性(22.6%)よりも5.1ポイント高く、女性は「趣味のサークル活動」が29.8%と男性(21.8%)より8.0ポイント高い。(表10-9)

年齢階級別でみると、年齢が高くなるにつれて、どの活動でも参加希望の割合が減少している。

表10-9 今後したい活動－性、年齢階級別

		総数	趣味のサークル活動	教養講座等の学習活動	スポーツ	NPO活動・地域活動・ボランティア活動	左記の中でしたいものはない	無回答
総数		100.0 (4,583)	26.2	11.6	24.9	15.3	49.2	2.5
性別	男	100.0 (2,052)	<u>21.8</u>	10.9	<u>27.7</u>	18.1	47.2	2.5
	女	100.0 (2,531)	<u>29.8</u>	12.2	<u>22.6</u>	13.1	50.8	2.5
年齢階級別	65～69歳	100.0 (1,279)	30.0	15.9	36.0	20.6	<u>35.7</u>	3.4
	70～74歳	100.0 (1,335)	28.5	12.0	27.3	18.2	<u>44.9</u>	1.9
	75～79歳	100.0 (955)	27.4	11.5	21.6	13.1	<u>51.4</u>	2.1
	80～84歳	100.0 (617)	21.4	7.8	13.1	7.8	<u>64.5</u>	2.4
	85歳以上	100.0 (397)	10.6	3.0	7.1	5.8	<u>77.6</u>	2.8

地域別でみると、区部より市町村部のほうが、今後したい活動（趣味のサークル活動、教養講座の受講等の学習活動、スポーツ、ボランティア活動・地域活動・NPO 活動）の割合は高く、「左記の中でしたいものはない」の割合は低い。（表 10-10）

表 10-10 今後したい活動ー地域別

		総 数	活 動 サ ー クル	学 習 活 動	教 養 講 座	ス ポ ー ツ	N 活 動 、 イ ン テ ル ネ ー ツ 、 地 域 活 動	い も の し た い の は な い 中	無 回 答
総数		100.0 (4,583)	26.2	11.6	24.9	15.3	49.2	2.5	
地 域 別	区部 計	100.0 (3,073)	<u>25.7</u>	<u>10.8</u>	<u>23.9</u>	<u>14.8</u>	<u>50.2</u>	2.4	
	区中央部	100.0 (221)	23.5	10.9	28.5	15.8	44.8	5.9	
	区南部	100.0 (387)	27.9	13.4	27.6	18.9	47.0	0.5	
	区西南部	100.0 (405)	27.7	8.6	21.2	16.0	49.6	3.0	
	区西部	100.0 (360)	29.7	15.8	25.6	14.7	46.7	2.8	
	区西北部	100.0 (706)	26.2	11.3	23.5	16.1	50.8	1.4	
	区東北部	100.0 (559)	19.9	7.0	19.3	11.6	54.2	3.4	
	区東部	100.0 (435)	26.7	10.3	25.7	11.3	52.9	1.6	
	市・町・村部 計	100.0 (1,510)	<u>27.2</u>	<u>13.3</u>	<u>27.0</u>	<u>16.4</u>	<u>47.1</u>	2.8	
	西多摩	100.0 (191)	27.2	9.4	24.1	19.4	50.3	2.6	
	南多摩	100.0 (417)	23.7	12.5	30.2	17.5	44.1	4.1	
	北多摩西部	100.0 (218)	33.0	17.4	30.7	19.3	39.4	3.7	
	北多摩南部	100.0 (370)	25.1	10.5	20.0	13.2	53.8	2.2	
	北多摩北部	100.0 (314)	29.9	17.2	29.9	15.0	46.5	1.3	

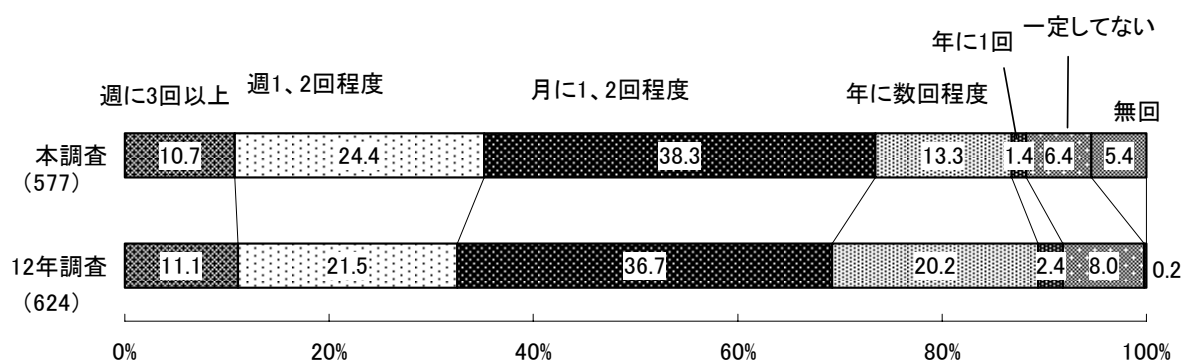
(5) ボランティア活動・地域活動・NPO 活動

ボランティア・地域・NPO活動への参加頻度は、「月に1、2回程度」が最も多く4割弱。

① 活動の頻度

1年間に行なった活動で、ボランティア活動・地域活動・NPO活動に参加したことのある高齢者（577名）にその頻度を尋ねたところ、「月に1、2回程度」が38.3%と最も多く、次いで「週1、2回程度」が24.4%となっている。（図10-5）

図10-5 1年間に行ったボランティア活動等の頻度－12年調査との比較



性、年齢階級別でみると、男女ともに、どの年齢階級についても月に1、2回程度の割合が最も高い。（表10-11）

収入のある仕事の有無別でみると、仕事をしている高齢者は、仕事をしていない高齢者より「月に1、2回程度」や「年に数回程度」の割合が高く、仕事をしていない高齢者は、仕事をしている高齢者より「週に1、2回程度」や「週に3回以上」の割合が高い。

表10-11 1年間に行ったボランティア活動等の頻度

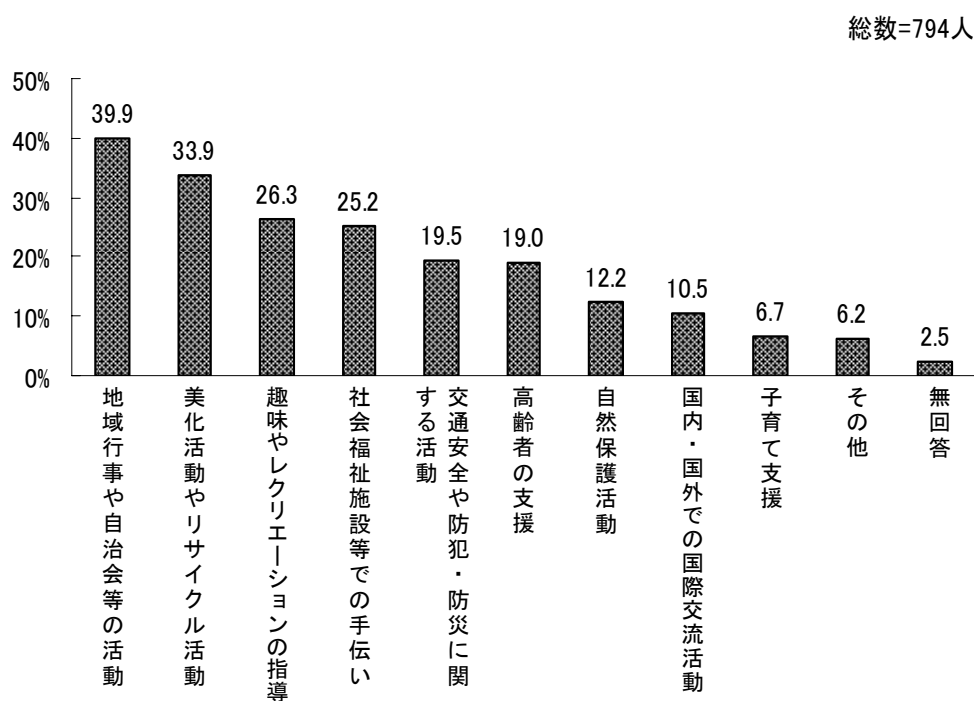
－性、年齢階級、収入のある仕事の有無別

		総数	週に3回以上	週1、2回程度	月に1、2回程度	年に数回程度	年に1回	一定してない	無回答
総数		100.0 (577)	10.7	24.4	38.3	13.3	1.4	6.4	5.4
性別	男	100.0 (300)	13.3	24.3	<u>40.0</u>	11.3	1.0	5.7	4.3
	女	100.0 (277)	7.9	24.5	<u>36.5</u>	15.5	1.8	7.2	6.5
年齢階級別	65～69歳	100.0 (204)	14.2	26.0	<u>33.3</u>	15.2	—	5.9	5.4
	70～74歳	100.0 (201)	8.0	22.4	<u>41.3</u>	13.4	2.0	5.5	7.5
	75～79歳	100.0 (110)	6.4	26.4	<u>46.4</u>	9.1	1.8	6.4	3.6
	80～84歳	100.0 (43)	18.6	25.6	<u>25.6</u>	14.0	2.3	14.0	—
	85歳以上	100.0 (19)	10.5	15.8	<u>42.1</u>	15.8	5.3	5.3	5.3
無事ある収入の有無別	仕事をしている	100.0 (220)	<u>9.5</u>	<u>21.8</u>	<u>40.0</u>	<u>17.7</u>	1.4	4.1	5.5
	仕事をしていない	100.0 (357)	<u>11.5</u>	<u>26.1</u>	<u>37.3</u>	<u>10.6</u>	1.4	7.8	5.3

② 今後参加したい（現在参加している）ボランティア活動等の分野

一年間にボランティア活動・地域活動・NPO 活動をしてきた高齢者と、今後したい活動でボランティア活動・地域活動・NPO 活動と回答した高齢者 794 人に、今後参加したいと思う活動を尋ねたところ、地域行事や自治会等の活動が 39.9%と最も高く、次いで美化活動やリサイクル活動が 33.9%、趣味やレクリエーションの指導が 26.3%、社会福祉施設等での手伝いが 25.2%と続いている。（図 10-6）

図 10-6 今後参加したい（参加している）ボランティア活動（複数回答）



性別でみると、男性は美化活動やリサイクル活動(36.0%)、交通安全や防犯・防災に関する活動(25.9%)、自然保護活動(14.6%)国内・国外での国際交流活動(12.7%)の割合が高く、女性は高齢者の支援(22.8%)、社会福祉施設等での手伝い(30.2%)の割合が高い。(表 10-12)

表 10-12 今後参加したい(参加している)ボランティア活動(複数回答)
ー性、年齢階級、世帯構成(世代別)

		総数	高齢者の支援	伝社会福祉施設等での手	子育て支援	活動美化活動やリサイクル	趣味やレクリエーションの指導	交通安全や防犯・防災に関する活動	地域行事や自治会等の活動	自然保護活動	国内・国外での国際交流活動	その他	無回答
総数		100.0 (794)	19.0	25.2	6.7	33.9	26.3	19.5	39.9	12.2	10.5	6.2	2.5
性別	男	100.0 (417)	15.6	20.6	6.2	36.0	27.8	25.9	40.0	14.6	12.7	6.0	2.9
	女	100.0 (377)	22.8	30.2	7.2	31.6	24.7	12.5	39.8	9.5	8.0	6.4	2.1
年齢階級別	65～69歳	100.0 (298)	20.8	24.5	8.1	35.6	26.5	19.5	36.6	16.1	13.8	6.7	2.3
	70～74歳	100.0 (275)	19.3	26.5	6.2	32.7	24.7	18.9	44.0	11.6	10.5	2.9	1.5
	75～79歳	100.0 (139)	16.5	23.0	5.0	34.5	30.2	20.9	38.1	7.9	6.5	7.2	5.0
	80～84歳	100.0 (55)	12.7	21.8	7.3	32.7	27.3	23.6	38.2	7.3	7.3	9.1	3.6
	85歳以上	100.0 (27)	22.2	37.0	3.7	25.9	18.5	11.1	48.1	7.4	—	22.2	—
世帯構成(世代別)	単身世帯(ひとり暮らし)	100.0 (127)	25.2	32.3	3.1	28.3	20.5	12.6	33.1	9.4	11.8	8.7	3.9
	一世代世帯(夫婦のみ)	100.0 (308)	17.9	25.3	6.2	37.7	26.3	18.8	38.0	11.7	11.4	6.2	1.6
	二世帯世帯(親子)	100.0 (257)	16.7	21.8	8.2	29.2	28.0	19.8	41.6	14.0	10.5	5.8	2.7
	三世帯世帯(親子と孫)	100.0 (90)	17.8	23.3	6.7	42.2	30.0	31.1	52.2	12.2	5.6	4.4	2.2

地域別でみると、美化活動やリサイクル活動は、区部 30.2%より市町村部 40.2%の方が 10.0 ポイント高い。(表 10-13)

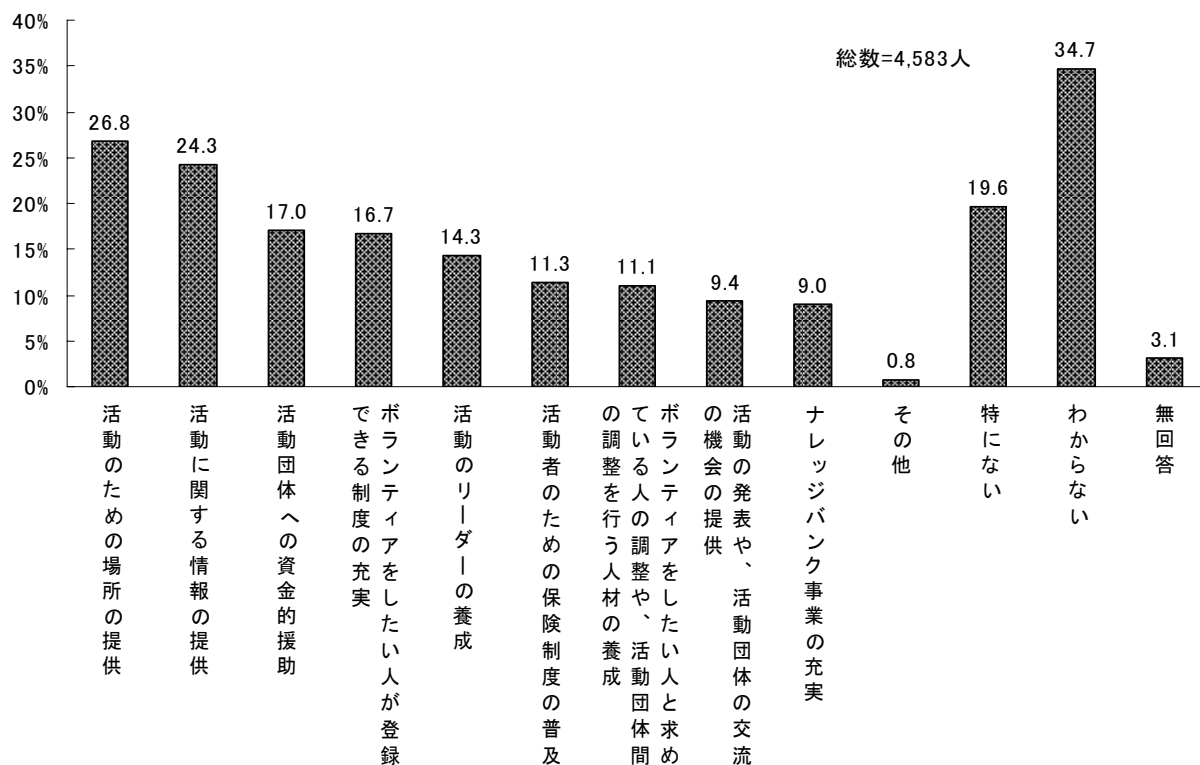
表 10-13 今後参加したい(参加している)ボランティア活動(複数回答)ー地域別

		総数	高齢者の支援	伝社会福祉施設等での手	子育て支援	活動美化活動やリサイクル	趣味やレクリエーションの指導	交通安全や防犯・防災に関する活動	地域行事や自治会等の活動	自然保護活動	国内・国外での国際交流活動	その他	無回答
総数		100.0 (794)	19.0	25.2	6.7	33.9	26.3	19.5	39.9	12.2	10.5	6.2	2.5
地域別	区部 計	100.0 (503)	18.1	22.5	6.4	30.2	24.3	20.9	41.9	10.5	12.1	7.6	2.2
	市・町・村部 計	100.0 (291)	20.6	29.9	7.2	40.2	29.9	17.2	36.4	15.1	7.6	3.8	3.1

③ 活動を盛んにするために行政に望むこと

高齢者のボランティア活動、地域活動、NPO活動をより盛んにするための行政の支援は何かを尋ねたところ、「わからない」と「特にない」が高い割合であった。一方で最も多く望まれた支援は、「活動のための場所の提供」が26.8%であった。次いで「活動に関する情報の提供」24.3%、「活動団体への資金的援助」17.0%と続いている。(図10-7)

図10-7 高齢者のボランティア活動等に必要な行政の支援（複数回答）



地域別でみると、高齢者のボランティア活動等に必要な行政の支援のすべての選択肢についての割合は、区部より市町村部が高い。(表 10-14)

表 10-14 高齢者のボランティア活動等に必要な行政の支援（複数回答）
一性、年齢階級、地域別、世帯構成（世代別）

		総数	活動のための場所の提供	活動に関する情報の提供	ボランティアをしたい人が登録できる制度の充実	活動のリーダーの養成	ボランティアをしたい人と求めている人の調整や、活動団体間の調整を行う人材の養成	ナレッジバンク事業の充実	活動の発表や、活動団体の交流の機会提供	活動団体への資金的援助	活動者のための保険制度の普及	その他	特にない	わからない	無回答
総数		100.0 (4,583)	26.8	24.3	16.7	14.3	11.1	9.0	9.4	17.0	11.3	0.8	19.6	34.7	3.1
性別	男	100.0 (2,052)	28.5	27.8	18.2	16.0	12.7	11.0	10.6	18.9	12.4	0.6	20.1	28.9	3.4
	女	100.0 (2,531)	25.4	21.4	15.4	12.9	9.8	7.3	8.5	15.4	10.5	0.9	19.2	39.5	2.8
年齢階級別	65～69歳	100.0 (1,279)	34.2	32.9	24.8	19.7	16.1	11.8	12.0	22.8	15.2	0.6	17.6	25.6	2.5
	70～74歳	100.0 (1,335)	31.4	27.6	19.2	16.6	12.4	10.1	10.7	19.8	12.8	1.0	19.6	29.7	2.4
	75～79歳	100.0 (955)	21.7	20.1	12.8	12.3	8.9	8.2	8.8	14.2	9.8	1.0	21.0	39.0	2.8
	80～84歳	100.0 (617)	18.6	14.6	7.6	6.8	5.2	5.2	6.2	10.7	7.6	0.6	21.4	46.2	3.7
	85歳以上	100.0 (397)	12.1	10.3	5.5	6.0	4.5	3.8	3.0	5.0	3.5	0.3	19.9	53.1	6.8
世帯構成（世代別）	単身世帯(ひとりぐらし)	100.0 (863)	21.3	18.7	12.9	10.9	10.3	6.5	8.1	13.9	9.4	1.0	21.7	41.1	1.9
	一世代世帯(夫婦のみ)	100.0 (1,700)	28.8	27.0	18.2	15.8	11.6	10.3	9.9	18.6	11.7	0.9	19.1	30.5	3.5
	二世代世帯(親と子)	100.0 (1,294)	28.3	26.0	18.5	15.4	11.4	9.4	10.4	17.8	12.6	0.4	19.9	32.0	3.6
	三世代世帯(親と子と孫)	100.0 (619)	25.8	21.2	13.4	13.4	9.4	7.3	6.9	15.2	10.0	0.6	18.9	41.5	2.3
地域別	区部 計	100.0 (3,073)	<u>24.4</u>	<u>22.8</u>	<u>15.9</u>	<u>12.7</u>	<u>10.3</u>	<u>8.3</u>	<u>8.8</u>	<u>15.5</u>	<u>10.2</u>	0.8	20.6	37.0	3.2
	市・町・村部 計	100.0 (1,510)	<u>31.6</u>	<u>27.2</u>	<u>18.2</u>	<u>17.5</u>	<u>12.6</u>	<u>10.3</u>	<u>10.7</u>	<u>20.0</u>	<u>13.8</u>	0.7	17.6	30.1	2.8

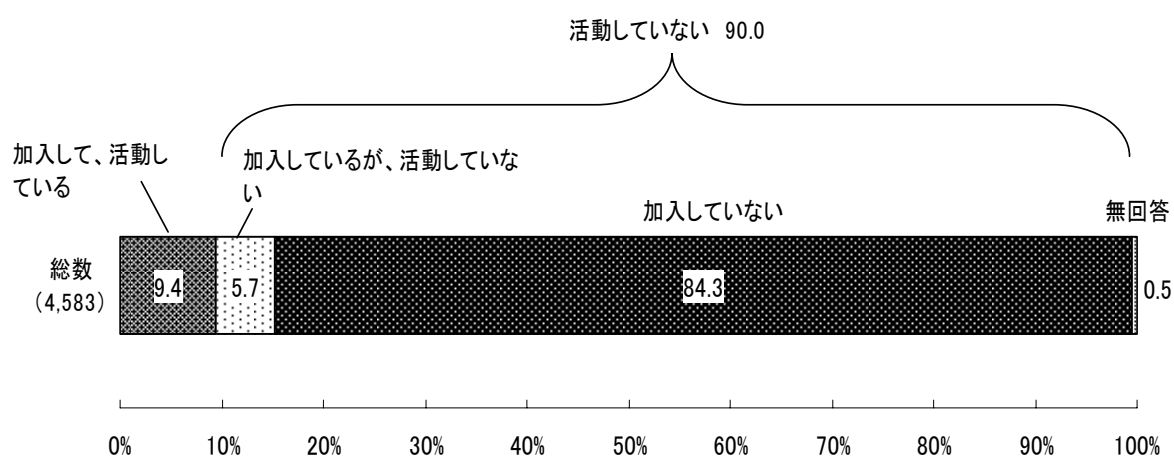
2 老人クラブ

(1) 加入状況

老人クラブに加入し活動している高齢者は1割に満たない。

老人クラブの加入について尋ねたところ、「加入していない」が84.3%となっており、8割を超えている。また「加入していない」と「加入しているが活動していない」との合計は90.0%となっている。「老人クラブに加入して活動している」割合は、1割に満たない。
(図 10-8)

図 10-8 老人クラブへの加入状況



性別でみると、加入していない高齢者は男性 87.1%、女性 82.1%と男性の方が 5.0 ポイント高い。加入しており、実際に活動している高齢者は女性 10.9%、男性 7.7%と女性の方が男性より 3.2 ポイント高い。(表 10-15)

年齢階級別でみると、どの年齢階級においても「加入していない」が高い割合であるが、中でも 65 歳～69 歳の高齢者は 90.3%と 9 割を超えている。

地域別でみると、「加入しており、実際に活動している」は区部 8.6%より市町村部 11.1%のほうが 2.5 ポイント高い。「加入していない」は区部 85.2%より市町村部 82.6%のほうが 2.6 ポイント低い。

表 10-15 老人クラブへの加入状況

一性、年齢階級、地域別、世帯構成（世代別）

		総 数	い実加 る際入 にし 活て 動お しり て、	動が加 し、入 て実し てい ないに いは る活	加 入 し て い ない	無 回 答
総数		100.0 (4,583)	9.4	5.7	84.3	0.5
性別	男	100.0 (2,052)	<u>7.7</u>	4.7	<u>87.1</u>	0.6
	女	100.0 (2,531)	<u>10.9</u>	6.6	<u>82.1</u>	0.5
年齢階級別	65～69歳	100.0 (1,279)	6.0	2.9	<u>90.3</u>	0.8
	70～74歳	100.0 (1,335)	9.2	5.5	<u>84.9</u>	0.4
	75～79歳	100.0 (955)	11.9	6.8	<u>80.7</u>	0.5
	80～84歳	100.0 (617)	12.0	8.1	<u>79.6</u>	0.3
	85歳以上	100.0 (397)	11.3	9.3	<u>78.8</u>	0.5
地域別	区部 計	100.0 (3,073)	<u>8.6</u>	5.7	<u>85.2</u>	0.6
	市・町・村部 計	100.0 (1,510)	<u>11.1</u>	5.8	<u>82.6</u>	0.5
世帯構成（世代別）	単身世帯（ひとりぐらし）	100.0 (863)	10.0	5.8	83.7	0.6
	一世代世帯（夫婦のみ）	100.0 (1,700)	8.1	5.1	86.4	0.4
	二世帯世帯（親と子）	100.0 (1,294)	8.9	5.6	84.8	0.8
	三世帯世帯（親と子と孫）	100.0 (619)	13.9	8.2	77.5	0.3

(3) 非加入者の加入していない理由

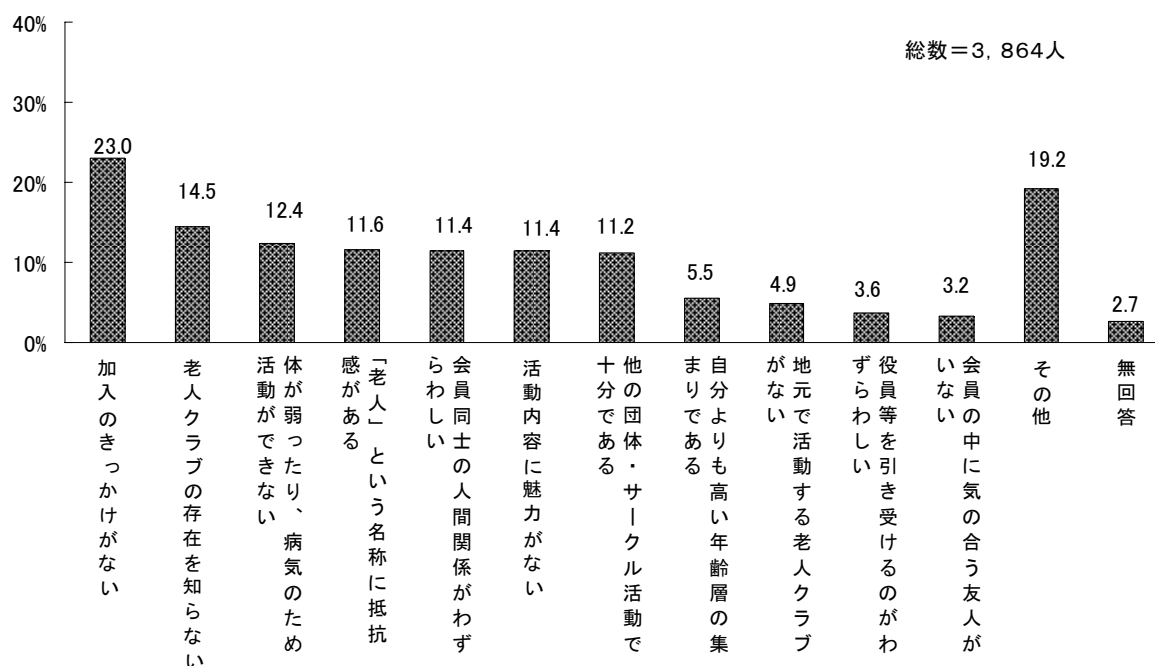
老人クラブへ加入しない理由は、「加入のきっかけがない」が最も多い。

老人クラブに加入していない人に、加入していない理由を尋ねたところ、「加入のきっかけがない」が23.0%と最も多く、次いで「老人クラブの存在を知らない」が14.5%となっており、きっかけがないことや存在を知らないという理由を挙げる人が多い。(図 10-10)

また、「体が弱ったり、病気のため活動ができない」人は12.4%で身体的な理由も多い。加入していない理由の「その他」の回答は以下のとおりであったが、忙しく時間のないと答えた高齢者の割合が多かった。

- 仕事があり忙しく時間がない (202 名)
- 忙しく時間がない (73 名)
- 家族や身内の介護・世話で忙しく時間がない (67 名)
- 家事や家庭のことをしていて忙しく時間がない (67 名)
- 興味が無い、参加したいと考えたことが無い (63 名)
- 老人クラブのような団体や集まりは苦手だったり、嫌いである (62 名)
- 必要と思わない (42 名)
- 他に自分のやりたいことや楽しみ・趣味がある (25 名)

図 10-10 老人クラブに加入していない理由（複数回答）



性別でみると、「体が弱ったり病気のため活動ができない」は、女性が 14.8%で男性が 9.6%と女性が 5.2 ポイント高く、「老人クラブの存在を知らない」は男性が 16.2%で女性が 13.1%と男性が 3.1 ポイント高くなっている。(表 10-17)

年齢階級別でみると、65 歳～74 歳では、「老人という名称に抵抗感があるため」が他の年齢階級より高くなっている。また 80 歳以上の高齢者では、「体が弱ったり、病気のため活動ができない」が最も高い。

表 10-17 老人クラブに加入していない理由（複数回答）

一性、年齢階級、動作能力類型別

		総数	老人クラブの存在を知らない	地元で活動する老人クラブがない	加入のきっかけがない	活動内容に魅力がない	他の団体・サークル活動で十分である	役員等を引き受けるのがわずらわしい	会員同士の人間関係がわずらわしい	会員の中に気の合う友人がいない	自分よりも高い年齢層の集まりである	体が弱ったり、病気のため活動ができない	「老人」という名称に抵抗感がある	その他	無回答
総数		100.0 (3,864)	14.5	4.9	23.0	11.4	11.2	3.6	11.4	3.2	5.5	12.4	11.6	19.2	2.7
性別	男	100.0 (1,787)	<u>16.2</u>	5.1	23.2	12.9	10.8	4.0	10.6	3.0	4.8	<u>9.6</u>	13.0	19.2	1.9
	女	100.0 (2,077)	<u>13.1</u>	4.7	22.9	10.1	11.6	3.4	12.1	3.5	6.2	<u>14.8</u>	10.4	19.2	3.3
年齢階級別	65～69歳	100.0 (1,155)	15.8	4.1	24.2	10.4	13.3	4.2	9.7	2.5	11.7	4.7	<u>15.0</u>	21.2	2.8
	70～74歳	100.0 (1,134)	15.6	4.6	24.9	12.7	11.9	4.4	12.5	3.8	5.1	8.4	<u>14.8</u>	19.4	1.2
	75～79歳	100.0 (771)	13.2	5.8	21.9	12.2	11.7	2.9	12.5	3.0	2.5	14.7	<u>7.9</u>	20.6	2.1
	80～84歳	100.0 (491)	12.6	7.1	21.6	10.6	8.6	3.3	12.6	4.5	0.4	<u>22.2</u>	<u>6.3</u>	13.4	4.5
	85歳以上	100.0 (313)	12.1	3.2	17.3	9.9	4.2	1.6	9.6	2.6	－	<u>34.8</u>	<u>4.8</u>	16.3	6.1
動作能力類型別	ねたきり等の高齢者	100.0 (335)	10.7	2.1	9.6	3.9	0.9	0.9	4.5	1.8	0.9	64.2	3.9	7.2	6.3
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (77)	22.1	3.9	15.6	6.5	2.6	1.3	13.0	3.9	－	27.3	5.2	14.3	2.6
	軽い障害のある高齢者	100.0 (650)	15.7	5.4	22.5	13.1	7.8	2.0	13.7	4.5	2.8	18.5	8.5	16.2	2.5
	障害のない高齢者	100.0 (2,802)	14.5	5.1	25.0	12.1	13.5	4.4	11.7	3.1	6.9	4.4	13.4	21.4	2.3

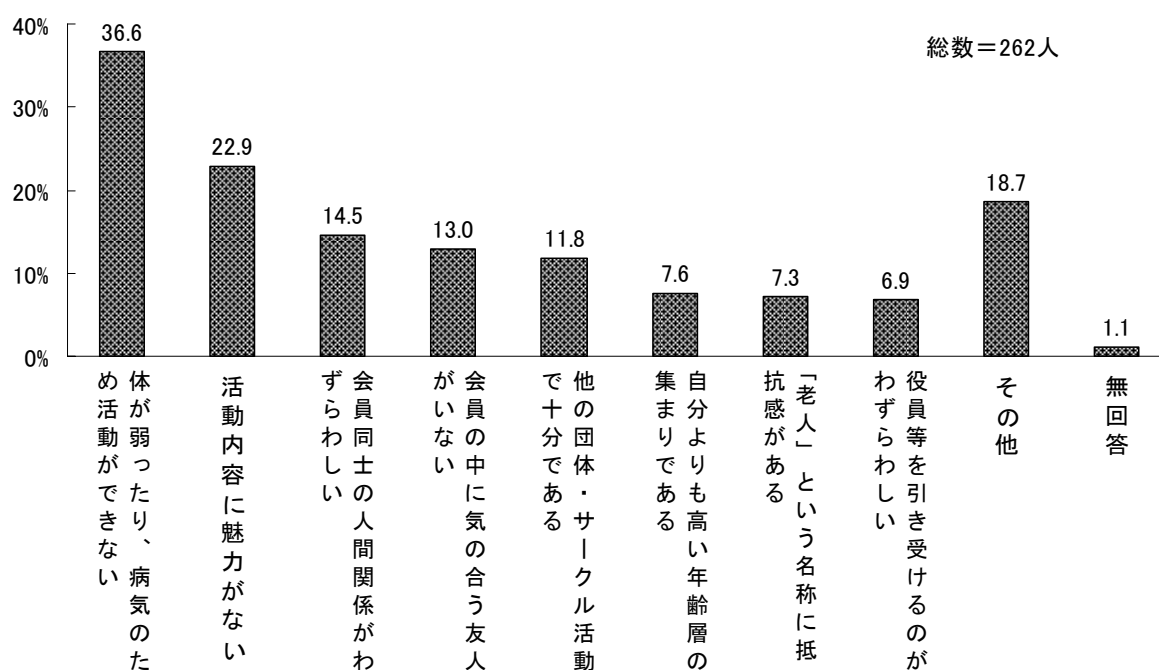
(4) 加入しているが活動していない理由

老人クラブに加入しているが活動していない理由は「体が弱ったり、病気のため」が最も多い。

老人クラブに加入しているが活動していない高齢者 262 人にその理由を尋ねたところ、「体が弱ったり、病気のため活動ができない」が最も多く 36.6%であった。次いで、「活動内容に魅力がない」が 22.9%、「会員同士の人間関係がわずらわしい」が 14.5%と続いている。(図 10-11)

図 10-11 老人クラブに加入しているが、実際には活動していない理由

(複数回答)



性別でみると、最も高い理由は男性が「活動内容に魅力がない」で 32.3%、女性は「体が弱ったり、病気のため活動ができない」が 46.4%となっている。(表 10-18)

年齢階級別でみると、「体が弱ったり、病気のため活動ができない」は年齢が上がるにつれて、割合も高くなる。

表 10-18 老人クラブに加入しているが、実際には活動していない理由（複数回答）
— 性、年齢階級別

		総数	い活動内容に魅力がない	活動の団体・サークル	の役員等を引き受ける	が会員同士の人間関係	友会員の中に気の合う	層自分よりも高い年齢	いの体が弱ったり、病気が	に「老人感」という名称	その他	無回答
総数		100.0 (262)	22.9	11.8	6.9	14.5	13.0	7.6	36.6	7.3	18.7	1.1
性別	男	100.0 (96)	<u>32.3</u>	15.6	10.4	16.7	19.8	11.5	19.8	9.4	19.8	1.0
	女	100.0 (166)	17.5	9.6	4.8	13.3	9.0	5.4	<u>46.4</u>	6.0	18.1	1.2
年齢階級別	65～69歳	100.0 (37)	16.2	18.9	10.8	13.5	10.8	27.0	<u>16.2</u>	8.1	32.4	2.7
	70～74歳	100.0 (73)	34.2	20.5	13.7	17.8	16.4	9.6	<u>19.2</u>	13.7	19.2	-
	75～79歳	100.0 (65)	29.2	10.8	1.5	18.5	16.9	4.6	<u>29.2</u>	6.2	20.0	1.5
	80～84歳	100.0 (50)	14.0	4.0	4.0	12.0	12.0	-	<u>56.0</u>	4.0	14.0	2.0
	85歳以上	100.0 (37)	8.1	-	2.7	5.4	2.7	-	<u>78.4</u>	-	8.1	-

地域別でみると、市・町・村部は区部より、「体が弱ったり、病気のため活動ができない」や「老人という名称に抵抗がある」の割合が高く、他の理由は区部の方が高い。(表 10-19)

表 10-19 老人クラブに加入しているが、実際には活動していない理由（複数回答）
— 地域別

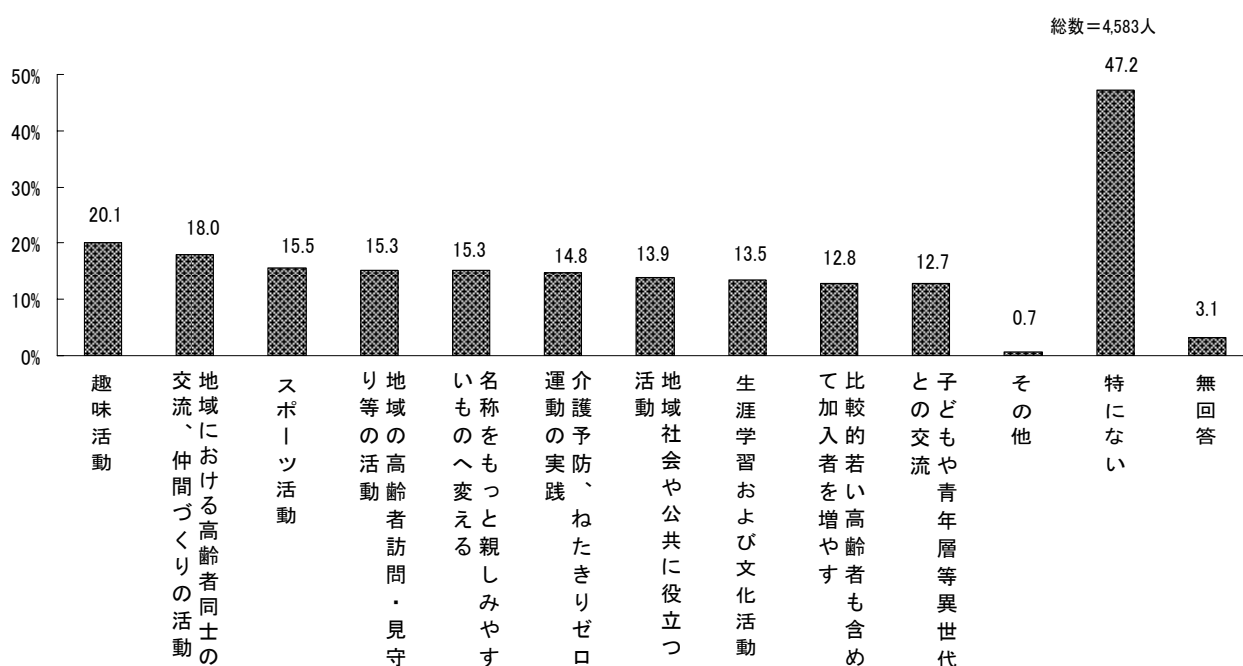
		総数	い活動内容に魅力がない	活動の団体・サークル	の役員等を引き受ける	が会員同士の人間関係	友会員の中に気の合う	層自分よりも高い年齢	いの体が弱ったり、病気が	に「老人感」という名称	その他	無回答
総数		100.0 (262)	22.9	11.8	6.9	14.5	13.0	7.6	36.6	7.3	18.7	1.1
地域別	区部	100.0 (174)	<u>24.1</u>	<u>13.8</u>	<u>7.5</u>	<u>17.2</u>	<u>14.9</u>	<u>8.0</u>	<u>32.2</u>	<u>5.2</u>	18.4	1.1
	市・町・村部	100.0 (88)	<u>20.5</u>	<u>8.0</u>	<u>5.7</u>	<u>9.1</u>	<u>9.1</u>	<u>6.8</u>	<u>45.5</u>	<u>11.4</u>	19.3	1.1

(5) 老人クラブの活性化に充実が必要な活動等

老人クラブの活性化に充実が必要な活動等は、「趣味活動」が20%、「地域における高齢者同士の交流、仲間づくりの活動」が18%、一方「特にない」も47%と5割弱

老人クラブの活性化のために充実が必要な活動等を尋ねたところ、「趣味活動」が20.1%と最も多く、次いで「地域における高齢者同士の交流、仲間づくりの活動」が18.0%、「スポーツ活動」が15.5%等となっている。また一方で「特にない」が47.2%と半数近い結果になっている。(図 10-12)

図 10-12 老人クラブの活性化のために充実が必要な活動等（複数回答）



年齢階級別でみると、前期高齢者（65 歳～74 歳）は、「趣味活動」をあげる人が多く、他の選択肢も、後期高齢者（75 歳以上）より割合が高い傾向がある。（表 10-20）

地域別でみると、「特にない」は 4.6 ポイント、「名称をもっと親しみやすいものへ変える」は 2.4 ポイント区部のほうが市町村より高い。

表 10-20 老人クラブの活性化のために充実が必要な活動等（複数回答）

一性、年齢階級、地域別

		総 数	地 域 の 活 動 の 高 齢 者 訪 問 ・ 見 守 り 等	介 護 予 防 、 ね た き り ゼ ロ 運 動	地 域 社 会 や 公 共 に 役 立 つ 活 動	交 流 子 ど も や 青 年 層 等 異 世 代 と の	地 域 に お け る 高 齢 者 同 士 の 交 流	生 涯 学 習 お よ び 文 化 活 動	趣 味 活 動	ス ポ ー ツ 活 動	比 較 的 若 い 高 齢 者 も 含 め て 加 入 者 を 増 や す	名 称 を も っ と 親 し み や す い も の へ 変 え る	そ の 他	特 に な い	無 回 答
総数		100.0 (4,583)	15.3	14.8	13.9	12.7	18.0	13.5	20.1	15.5	12.8	15.3	0.7	47.2	3.1
性 別	男	100.0 (2,052)	15.2	13.7	16.6	13.7	18.4	14.6	20.9	17.8	13.6	17.3	0.7	44.9	3.4
	女	100.0 (2,531)	15.3	15.6	11.8	11.9	17.7	12.6	19.5	13.7	12.2	13.6	0.6	49.1	2.9
年 齢 階 級 別	65～69歳	100.0 (1,279)	18.0	18.9	18.8	16.5	21.5	17.9	<u>23.8</u>	21.0	15.6	19.0	0.5	42.0	2.3
	70～74歳	100.0 (1,335)	15.1	14.6	15.0	13.3	18.9	14.8	<u>22.3</u>	17.6	14.8	17.3	0.7	42.3	2.4
	75～79歳	100.0 (955)	15.4	13.4	12.6	11.2	17.6	11.7	20.2	13.4	11.0	13.2	0.6	49.5	2.5
	80～84歳	100.0 (617)	13.5	13.3	8.4	10.0	13.5	10.2	14.4	9.7	10.2	11.2	0.8	56.2	3.4
	85歳以上	100.0 (397)	9.6	7.6	6.5	6.3	12.1	4.3	9.6	4.8	5.8	7.6	1.0	61.0	8.8
地 域 別	区部	100.0 (3,073)	15.0	13.5	13.7	11.8	17.2	12.9	18.5	14.7	12.8	<u>16.0</u>	0.6	<u>48.7</u>	3.1
	市・町・村部	100.0 (1,510)	15.8	17.3	14.4	14.5	19.6	14.8	23.4	17.2	12.8	<u>13.6</u>	0.7	<u>44.1</u>	3.2

3 楽しみ生きがい

(1) 楽しみや生きがい

楽しみや生きがいは、「旅行」「テレビ・ラジオ」「趣味」が5割弱。「スポーツ」「仕事」が増加している。

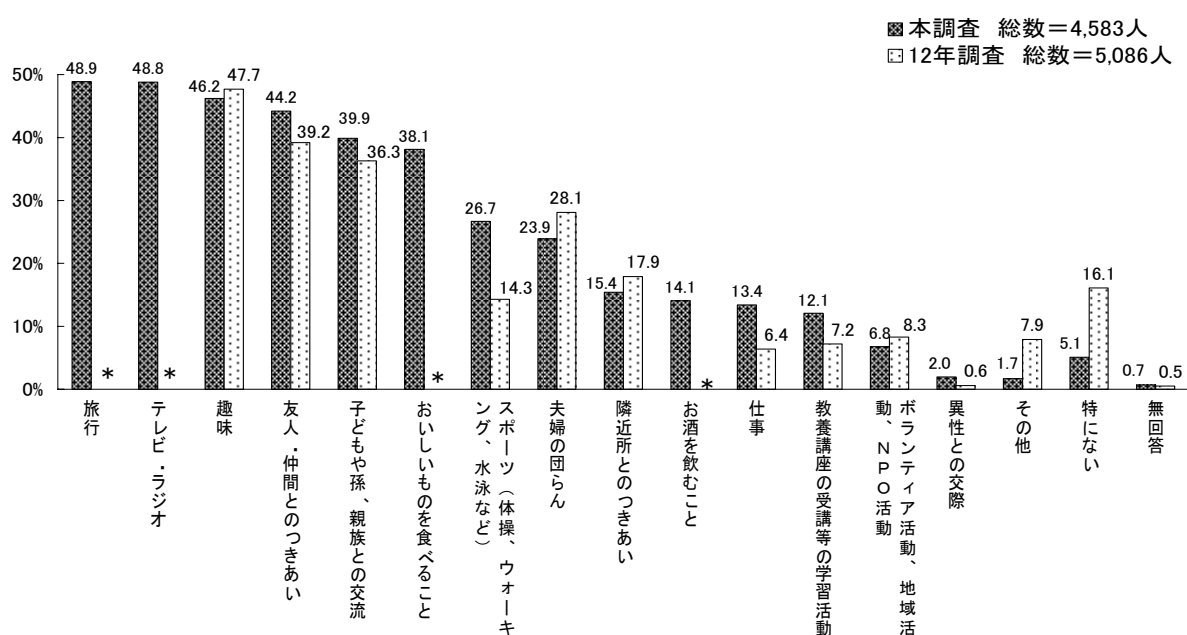
楽しみや生きがいはどんなことかを尋ねたところ、「旅行」が48.9%、「テレビ・ラジオ」も48.8%と、5割近くにのぼった。次いで「趣味」が46.2%、「友人・友達とつきあい」が44.2%、「子どもや孫、親族との交流」が39.9%、「おいしいものを食べること」が38.1%と続いている。(図 10-13)

12年調査と比較すると、スポーツが12.4ポイント、仕事が7.0ポイント増加しているのが目立つ。

楽しみや生きがいについての「その他」の回答は、以下のとおりであった。

- ペットと一緒に過ごしたり世話をすること(10名)
- 宗教(9名)
- 熟睡すること(3名)
- タバコを吸う(3名)
- 銭湯に行く(2名)
- 毎日一生懸命生きる(2名)
- 別荘ライフ(2名)
- 毎日平穏に暮らせること(2名)

図 10-13 楽しみや生きがい(複数回答)



(注) * は前回調査時に選択肢がなく、データが存在しないもの

性別でみると、男性は、「夫婦の団らん」が 32.8%、「スポーツ」が 32.5%、「お酒を飲むこと」が 23.9%、「仕事」が 18.5%で女性より高く、一方女性は、「友人・仲間とのつきあい」が 48.3%、「子どもや孫、親族との交流」が 42.8%、「おいしいものを食べること」が 42.7%、「隣近所とのつきあい」が 18.4%で、男性より高い。（表 10-21）

表 10-21 楽しみや生きがい（複数回答）一性、年齢階級別

		総数	趣味	旅行	スポーツ	教養講座の受講等の学習活動	テレビ・ラジオ	子どもや孫、親族との交流	夫婦の団らん	友人・仲間とのつきあい	隣近所とのつきあい	異性との交際	NPO活動	ボランティア活動、地域活動、	仕事	おいしいものを食べること	お酒を飲むこと	その他	特にな	無回答
総数		100.0 (4,583)	46.2	48.9	26.7	12.1	48.8	39.9	23.9	44.2	15.4	2.0	6.8	13.4	38.1	14.1	1.7	5.1	0.7	
性別	男	100.0 (2,052)	48.5	50.1	<u>32.5</u>	12.3	46.2	36.3	<u>32.8</u>	39.2	11.7	2.7	7.7	<u>18.5</u>	32.4	<u>23.9</u>	1.1	4.9	0.9	
	女	100.0 (2,531)	44.4	47.9	22.0	11.9	50.9	<u>42.8</u>	16.7	<u>48.3</u>	<u>18.4</u>	1.3	6.0	9.3	<u>42.7</u>	6.0	2.2	5.2	0.6	
年齢階級別	65～69歳	100.0 (1,279)	51.1	62.9	38.2	14.9	47.3	39.1	30.3	52.4	15.0	3.1	9.4	21.7	43.3	19.5	1.1	3.4	0.6	
	70～74歳	100.0 (1,335)	49.6	54.5	30.6	13.9	46.7	40.4	25.2	48.0	15.3	2.5	7.6	15.1	38.1	13.9	1.0	4.0	0.4	
	75～79歳	100.0 (955)	45.9	45.2	21.7	11.9	50.2	40.7	23.4	43.4	17.3	0.7	6.3	8.8	36.1	12.5	2.4	5.3	0.3	
	80～84歳	100.0 (617)	40.5	32.1	13.3	6.8	52.4	37.8	18.2	33.9	14.4	0.8	3.1	6.3	35.8	10.2	2.9	6.2	0.6	
	85歳以上	100.0 (397)	28.7	19.6	9.3	5.8	52.1	42.1	9.6	23.2	14.1	1.3	2.5	3.3	30.0	7.1	2.3	11.8	2.8	

世帯構成（世代別）でみると、どの世帯も「テレビ、ラジオ」は高い割合であるが、特に三世帯世帯が 53.5%と最も高い。一世代世帯（夫婦のみ）は「旅行」54.3%と「趣味」50.8%が高い。（表 10-22）

動作能力類型別でみると、障害のない高齢者は「旅行」が 56.5%、軽い障害のある高齢者、比較的重い障害のある高齢者、ねたきり等（寝たきり高齢者、ねたきりに近い高齢者）の高齢者は「テレビ・ラジオ」が最も高い割合である。

表 10-22 楽しみや生きがい（複数回答）－世帯構成（世代別）、動作能力類型別

		総数	趣味	旅行	スポーツ	教養講座の受講等の学習活動	テレビ・ラジオ	子どもや孫、親族との交流	夫婦の団らん	友人・仲間とのつきあい	隣近所とのつきあい	異性との交際	NPO活動	ボランティア活動、地域活動、	仕事	おいしいものを食べることに	お酒を飲むこと	その他	特にない	無回答
総数		100.0 (4,583)	46.2	48.9	26.7	12.1	48.8	39.9	23.9	44.2	15.4	2.0	6.8	13.4	38.1	14.1	1.7	5.1	0.7	
世帯構成（世代別）	単身世帯（ひとり暮らし）	100.0 (863)	44.1	41.4	19.7	13.6	<u>50.9</u>	29.2	－	44.8	16.6	2.4	5.6	10.1	39.9	10.4	2.4	7.5	0.2	
	一世代世帯（夫婦のみ）	100.0 (1,700)	<u>50.8</u>	<u>54.3</u>	31.3	13.1	<u>45.9</u>	41.2	39.0	44.4	14.7	1.9	6.3	15.1	37.4	16.4	1.2	4.4	0.3	
	二世帯世帯（親と子）	100.0 (1,294)	44.9	48.5	28.9	11.6	<u>48.6</u>	38.3	23.6	46.4	15.1	1.9	8.7	14.7	37.7	15.0	1.4	4.4	1.1	
	三世帯世帯（親と子と孫）	100.0 (619)	40.7	47.2	20.5	8.7	<u>53.5</u>	55.7	19.2	38.4	17.0	1.0	5.8	10.5	39.1	12.0	2.1	4.5	1.6	
動作能力類型別	ねたきり等の高齢者	100.0 (381)	16.3	10.5	1.8	2.6	<u>49.6</u>	40.7	11.8	18.6	7.9	0.5	0.3	2.4	31.5	5.2	4.7	13.9	3.7	
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (93)	24.7	30.1	11.8	6.5	<u>51.6</u>	43.0	18.3	26.9	10.8	－	7.5	7.5	33.3	7.5	1.1	12.9	－	
	軽い障害のある高齢者	100.0 (810)	41.0	37.9	17.0	8.1	<u>51.0</u>	39.0	21.0	37.3	14.9	0.6	5.7	8.9	34.6	11.4	1.2	6.3	0.4	
	障害のない高齢者	100.0 (3,299)	51.6	<u>56.5</u>	32.3	14.3	48.1	39.9	26.2	49.3	16.5	2.5	7.8	15.9	39.9	15.9	1.5	3.5	0.5	

(2) 帰属感をもつグループ

自分の居場所とを感じるグループは、「趣味のサークル・団体」を上げる人が3割近い。
一方「特にない」は4割強

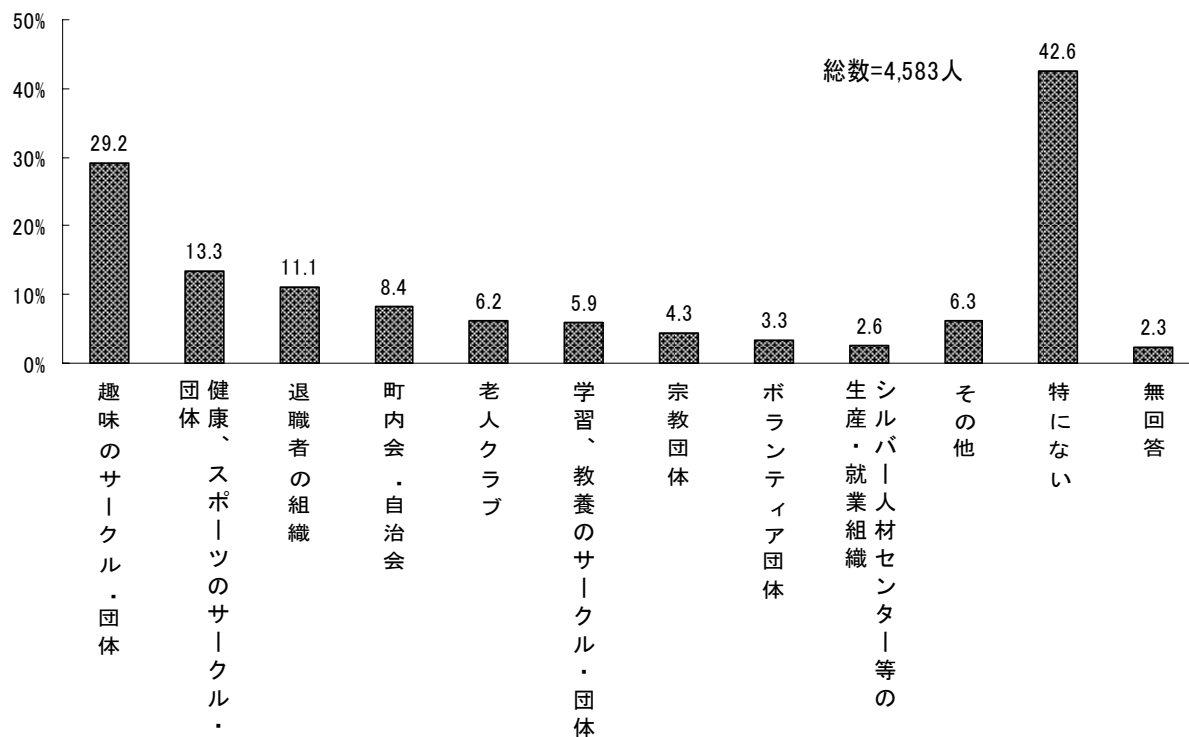
親しい仲間や気の置けない友人がいて自分の居場所を感じることができるグループや集まりがあるのかどうかを尋ねたところ、特にないが42.6%と最も多く、次いで趣味のサークル・団体が29.2%、健康・スポーツのサークル・団体が13.3%と続いている。

(図 10-14)

自分の居場所を感じるグループの「その他」の回答については、以下のとおりであった。

- | | |
|--------------------|------------------------|
| ○ 同窓会 (72 名) | ○ 昔の仲間・幼友達 (13 名) |
| ○ 学生時代の友人 (69 名) | ○ 子どものつながりのグループ (13 名) |
| ○ デイサービスの仲間 (24 名) | ○ 昔のお弟子さんたちのグループ (5 名) |
| ○ 近所の仲間 (31 名) | ○ 戦友会 (3 名) |
| ○ 友人との食事会 (21 名) | ○ 県人会 (3 名) |
| | 他 |

図 10-14 帰属感をもつグループ(複数回答)



性別でみると、男女とも「特にない」の割合が最も高い。女性は男性より、「趣味のサークル・団体」が4.9ポイント割合が高く、男性は女性より「退職者の組織」が14.9ポイント割合が高くなっている。(表10-23)

年齢階級別でみると、「特にない」は年齢があがるにつれて割合が増加している。

世帯構成（世代別）でみると、「特にない」はどの世帯でも最も高い。一世代世帯（夫婦のみ）は、他の世帯構成（世代別）に比べ帰属感をもちグループが多いが、「趣味のサークル・団体」は32.8%と最も高い。

表10-23 帰属感をもちグループ（複数回答）一性、年齢階級、世帯構成（世代別）

		総数	趣味のサークル・団体	老人クラブ	町内会・自治会	健康・スポーツのサークル・団体	退職者の組織	ボランティア団体	宗教団体	学習・教養のサークル・団体	業組織等（生産・就労）	その他	特にない	無回答
総数		100.0 (4,583)	29.2	6.2	8.4	13.3	11.1	3.3	4.3	5.9	2.6	6.3	42.6	2.3
性別	男	100.0 (2,052)	<u>26.5</u>	4.9	10.1	14.8	<u>19.3</u>	3.8	2.9	5.2	4.5	5.4	<u>41.2</u>	2.1
	女	100.0 (2,531)	<u>31.4</u>	7.2	7.0	12.1	<u>4.4</u>	3.0	5.4	6.5	1.1	7.0	<u>43.8</u>	2.5
年齢階級別	65～69歳	100.0 (1,279)	33.7	3.7	9.7	18.7	13.8	4.6	4.6	6.8	4.6	5.6	<u>34.5</u>	2.7
	70～74歳	100.0 (1,335)	33.1	5.4	8.2	16.0	11.5	3.7	4.7	6.2	2.6	6.6	<u>38.4</u>	2.1
	75～79歳	100.0 (955)	29.2	7.5	8.8	11.2	12.3	2.7	3.7	6.6	1.9	6.9	<u>43.1</u>	2.0
	80～84歳	100.0 (617)	22.2	9.1	7.8	6.2	7.9	2.1	4.1	4.4	0.8	6.2	<u>53.0</u>	1.6
	85歳以上	100.0 (397)	12.1	9.3	4.5	3.3	2.8	1.3	3.5	2.8	0.8	5.8	<u>65.7</u>	3.5
世帯構成（世代別）	単身世帯（ひとり暮らし）	100.0 (863)	28.6	5.8	7.1	10.9	7.0	3.0	5.4	6.5	1.6	5.6	<u>46.9</u>	3.1
	一世代世帯（夫婦のみ）	100.0 (1,700)	<u>32.8</u>	5.5	9.2	15.4	14.4	3.1	3.2	6.6	3.0	5.8	<u>38.9</u>	2.0
	二世代世帯（親と子）	100.0 (1,294)	27.0	6.1	8.7	13.7	10.7	3.9	4.9	5.3	2.8	6.6	<u>42.3</u>	2.3
	三世代世帯（親と子と孫）	100.0 (619)	26.0	9.2	7.4	11.5	8.9	3.2	4.4	4.8	2.3	7.3	<u>45.7</u>	1.8

地域別でみると、区部、市町村部とも最も高い割合は「特にない」であるが、6.7 ポイント区部が高い。また、すべてのグループについて、市町村部のほうが区部よりの割合が高い。(表 10-24)

表 10-24 帰属感をもちグループ（複数回答）－地域別

		総 数	趣 味 の サ ー ク ル ・ 団 体	老 人 ク ラ ブ	町 内 会 ・ 自 治 会	健 康 ・ ス ポ ー ツ の サ ー ク ル ・ 団 体	退 職 者 の 組 織	ボ ラ ン テ ィ ア 団 体	宗 教 団 体	学 習 ・ 教 養 の サ ー ク ル ・ 団 体	シ ル バ ー 人 材 セ ン タ ー 等 の 生 産 ・ 就 業 組 織	そ の 他	特 に な い	無 回 答
総数		100.0 (4,583)	29.2	6.2	8.4	13.3	11.1	3.3	4.3	5.9	2.6	6.3	42.6	2.3
地 域 別	区部 計	100.0 (3,073)	<u>28.6</u>	<u>5.4</u>	<u>7.7</u>	<u>12.2</u>	<u>9.3</u>	<u>2.8</u>	<u>4.0</u>	<u>5.5</u>	<u>2.4</u>	6.6	<u>44.8</u>	2.3
	区中央部	100.0 (221)	22.6	4.5	8.1	11.3	8.6	5.0	3.6	5.9	3.2	8.1	44.8	5.9
	区南部	100.0 (387)	32.0	5.2	6.7	14.0	10.1	3.1	5.7	7.2	2.8	7.5	42.4	1.3
	区西南部	100.0 (405)	34.1	2.5	5.2	14.3	10.1	4.0	2.7	6.4	1.5	5.7	45.4	2.7
	区西部	100.0 (360)	32.8	6.4	6.1	12.2	9.7	3.3	3.3	7.8	3.1	9.2	41.1	1.9
	区西北部	100.0 (706)	28.5	5.7	6.5	12.0	11.5	2.8	4.0	5.2	2.1	5.9	44.5	1.0
	区東北部	100.0 (559)	23.8	5.2	10.9	9.1	7.2	1.8	4.3	3.8	2.1	6.6	47.2	2.7
	区東部	100.0 (435)	26.2	7.8	9.7	13.3	7.1	1.1	3.9	3.9	3.0	4.6	47.1	3.0
	市・町・村部 計	100.0 (1,510)	<u>30.4</u>	<u>7.8</u>	<u>9.7</u>	<u>15.6</u>	<u>14.6</u>	<u>4.4</u>	<u>4.9</u>	<u>6.7</u>	<u>3.0</u>	5.6	<u>38.1</u>	2.3
	西多摩	100.0 (191)	33.0	14.7	15.2	17.3	14.7	4.7	3.7	5.8	5.2	3.7	34.0	1.6
	南多摩	100.0 (417)	26.9	7.4	11.8	16.1	19.2	4.3	5.5	4.8	2.6	7.0	36.7	2.9
	北多摩西部	100.0 (218)	33.9	8.7	10.6	16.5	13.3	7.3	8.7	9.6	3.7	3.2	36.2	2.8
	北多摩南部	100.0 (370)	29.7	5.7	7.3	13.2	13.0	3.5	4.6	7.0	3.0	5.7	39.7	2.2
	北多摩北部	100.0 (314)	31.8	6.1	6.1	15.9	11.5	3.5	2.5	7.3	1.6	6.7	41.7	1.9

4 心配ごとや悩みごと

(1) 心配ごとや悩みごとの内容

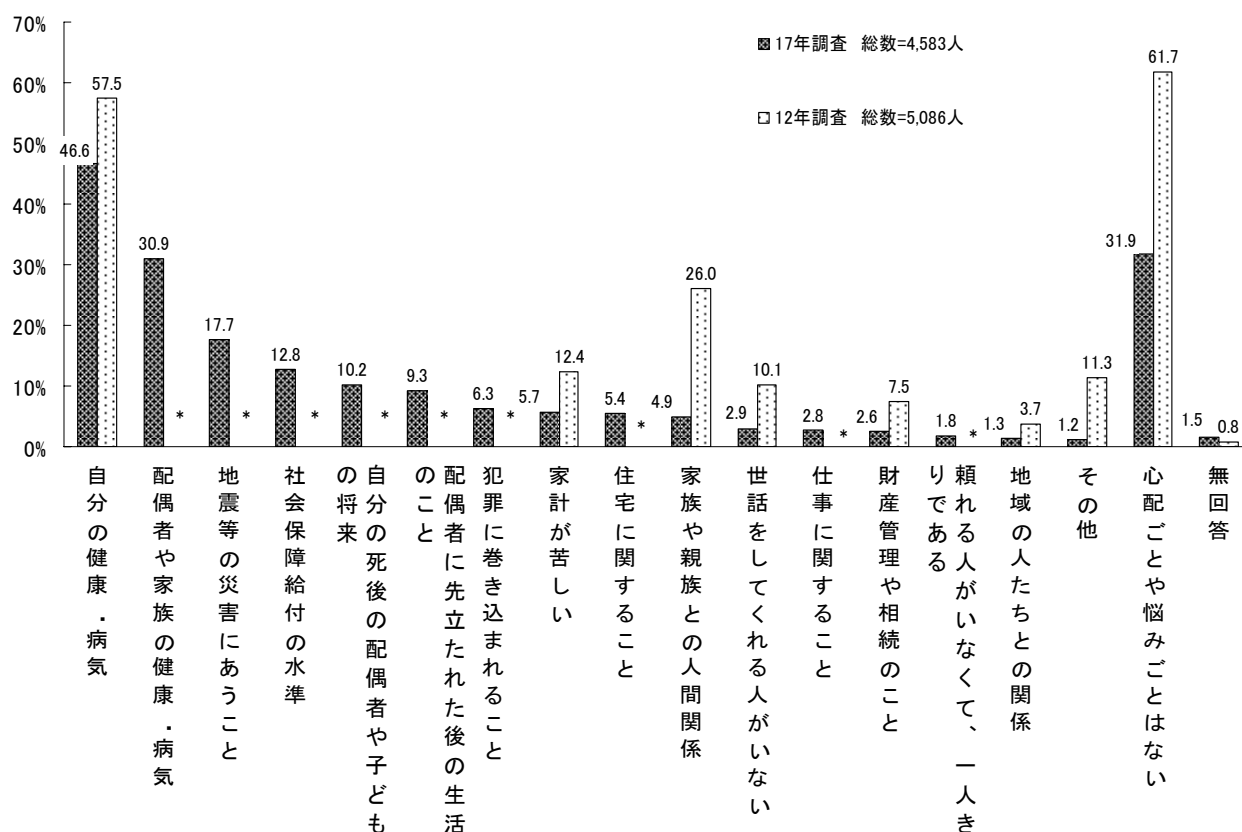
心配ごとや悩みごとの内容は、「自分の健康・病気」が47%、「配偶者や家族の健康・病気」が31%

現在心配ごとや悩みごとがあるかどうか尋ねたところ、「自分の健康・病気」が46.6%、次いで、「配偶者や家族の健康・病気」が30.9%、「地震等の災害にあうこと」が17.7%、「社会保障給付の水準」が12.8%、「自分の死後の配偶者や家族の将来」が10.2%と続いている。一方で、「心配ごとや悩みごとはない」は31.9%であった。(図10-15)

また相談ごとや悩みごとの内容の「その他」の回答は以下であった。

- 死ぬ時のこと (4名)
- 考えないようにしている (4名)
- ペットのこと (3名)
- 息子の商売 (3名)
- たくさんあるが、人には言えないしきりがいい (3名) 他

図10-15 心配ごとや悩みごとの内容(複数回答)



(注) *は12年調査では選択肢がなかったもの

性別でみると、「配偶者に先立たれた後の生活のこと」や「仕事に関すること」「自分の死後の配偶者や子どもの将来等」を心配する人は、男性のほうが女性より多い。(表 10-25)

世帯構成(世代別)でみると、「世話をしてくれる人がいない」は、単身世帯(ひとりぐらし)が 9.0%と他の世帯構成(世代別)に比べて高い。

表 10-25 心配事や悩みごとの内容(複数回答)ー性、世帯構成(世代別)

	総数	自分の健康・病気	配偶者や家族の健康・病	家族や親族との人間関係	世話をしてくれる人がいない	頼れる人がいなくて、一人きりで	地域の人たちとの関係	家計が苦しい	社会保障給付の水準	住宅に関すること	仕事に関すること	財産管理や相続のこと	犯罪に巻き込まれること	地震等の災害にあうこと	配偶者に先立たれた後の生活のこと	自分の死後の配偶者や子どもの将来	その他	心配ごとや悩みごとはない	無回答
総数	100.0 (4,583)	46.6	30.9	4.9	2.9	1.8	1.3	5.7	12.8	5.4	2.8	2.6	6.3	17.7	9.3	10.2	1.2	31.9	1.5
性別	男 (2,052)	44.5	33.3	5.4	2.3	1.5	1.5	5.9	14.3	5.8	4.4	2.3	5.6	16.7	<u>13.3</u>	<u>12.0</u>	1.3	32.4	1.8
	女 (2,531)	48.2	29.0	4.5	3.4	2.1	1.1	5.5	11.6	5.1	1.5	2.8	6.9	18.6	<u>6.0</u>	<u>8.7</u>	1.2	31.4	1.4
世帯構成(世代別)	単身世帯(ひとりぐらし) (863)	50.5	6.8	4.1	<u>9.0</u>	8.2	0.8	7.2	11.8	8.0	3.4	3.6	6.6	14.9	0.5	2.9	2.3	32.4	1.2
	一世帯世帯(夫婦のみ) (1,700)	45.2	41.8	4.6	<u>1.7</u>	0.2	1.2	5.4	13.9	5.0	2.8	2.4	6.6	18.6	15.5	11.1	1.0	32.2	1.2
	二世帯世帯(親と子) (1,294)	46.4	34.4	5.4	<u>1.7</u>	0.5	1.9	6.4	13.4	5.3	3.0	2.4	5.6	18.8	8.8	16.1	1.2	27.9	1.9
	三世帯世帯(親と子と孫) (619)	43.9	28.3	5.8	<u>0.6</u>	0.2	1.0	3.2	9.7	3.2	1.5	1.9	6.3	16.8	6.6	6.9	0.6	39.3	1.9

年収別でみると、50 万円未満の収入の高齢者は、「自分の健康・病気」が 50.6%と他の年齢階級よりも高い。50 万円以上 100 万円未満では、「家計が苦しい」が高い。700 万円以上 1,000 万未満では、「配偶者に先立たれた後の生活のこと」や「自分の死後の配偶者や子どもの将来」が高くなっている。(表 10-26)

表 10-26 心配事や悩みごとの内容(複数回答)ー年収別

	総数	自分の健康・病気	配偶者や家族の健康・病	家族や親族との人間関係	世話をしてくれる人がいない	頼れる人がいなくて、一人きりで	地域の人たちとの関係	家計が苦しい	社会保障給付の水準	住宅に関すること	仕事に関すること	財産管理や相続のこと	犯罪に巻き込まれること	地震等の災害にあうこと	配偶者に先立たれた後の生活のこと	自分の死後の配偶者や子どもの将来	その他	心配ごとや悩みごとはない	無回答
総数	100.0 (4,583)	46.6	30.9	4.9	2.9	1.8	1.3	5.7	12.8	5.4	2.8	2.6	6.3	17.7	9.3	10.2	1.2	31.9	1.5
年収別	50万円未満 (411)	<u>50.6</u>	41.1	4.9	1.5	0.7	1.5	7.5	11.4	5.8	2.2	1.5	5.6	16.1	9.2	10.9	1.0	26.8	1.7
	50万円以上 100万円未満 (781)	49.0	36.0	4.5	3.8	1.9	1.9	<u>9.5</u>	14.2	6.7	1.2	1.8	5.8	19.5	9.0	10.0	1.2	29.2	0.6
	100万円以上 150万円未満 (588)	50.3	27.2	5.1	6.6	4.4	1.2	8.5	14.3	5.6	2.6	2.2	8.3	18.0	7.1	11.4	1.9	30.4	2.4
	150万円以上 200万円未満 (462)	46.3	24.0	4.5	2.6	2.4	1.3	4.8	14.7	5.0	3.0	2.4	4.3	13.9	6.3	7.4	1.3	33.1	1.5
	200万円以上 250万円未満 (496)	48.2	26.2	5.2	2.6	1.8	1.8	3.6	14.9	6.5	2.8	2.8	5.8	19.0	8.1	7.3	1.0	33.7	2.2
	250万円以上 300万円未満 (497)	47.5	30.6	4.8	2.2	1.2	0.8	4.6	15.5	4.0	2.4	2.8	5.8	19.9	13.1	12.3	1.2	31.6	1.4
	300万円以上 500万円未満 (646)	42.9	33.4	5.7	1.5	1.1	0.9	3.7	11.0	5.9	3.3	2.5	7.7	18.4	12.2	12.2	0.9	33.4	1.4
	500万円以上 700万円未満 (205)	41.0	30.2	5.9	2.4	2.0	1.5	2.4	5.4	6.3	3.4	4.9	5.9	18.5	8.8	7.8	1.0	39.0	0.5
	700万円以上 1,000万円未満 (122)	43.4	38.5	5.7	1.6	-	1.6	0.8	13.1	2.5	5.7	7.4	5.7	18.0	<u>14.8</u>	<u>13.1</u>	-	29.5	0.8
	1,000万円以上 (142)	35.9	26.1	3.5	0.7	-	-	0.7	3.5	1.4	9.9	4.9	2.8	12.7	7.7	9.9	2.1	37.3	2.1

(2) 相談相手

心配ごとや悩みごとができたとき、世帯員に相談したり、話を聞いてもらう高齢者は、約 6 割

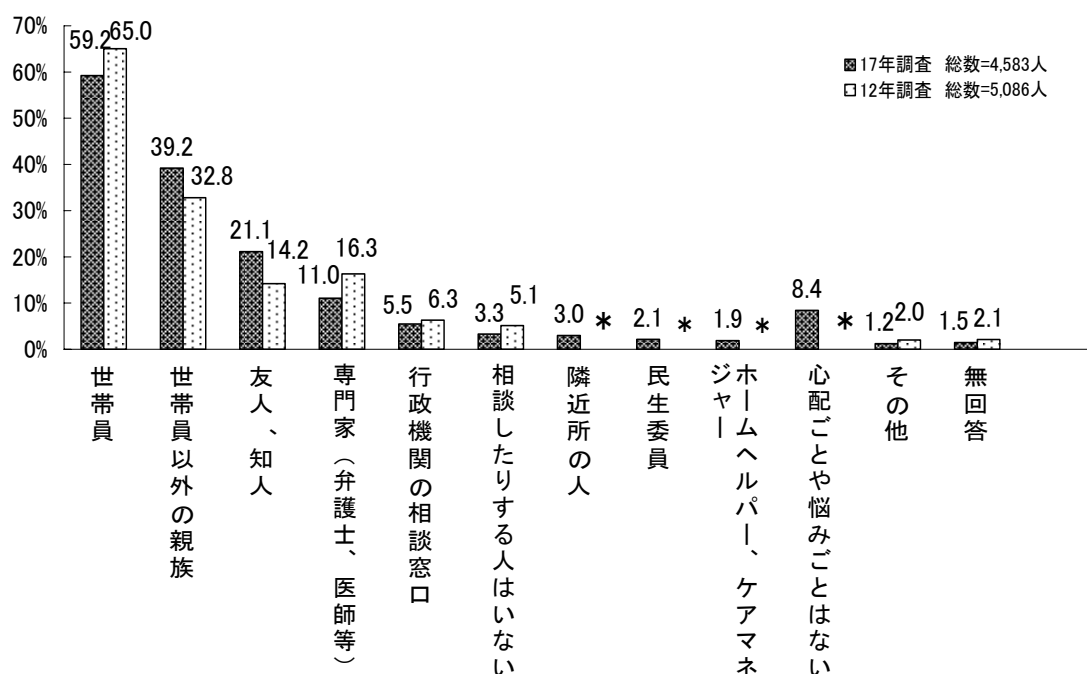
心配ごとや悩みごとができた場合、誰に話を聞いてもらったり相談するのか尋ねたところ、「世帯員」が 59.2%と最も高く、次いで「世帯員以外の親族」が 39.2%、「友人・知人」が 21.1%となっている。（図 10-16）

12 年調査と比較すると、世帯員は 5.8 ポイント減少している。一方で世帯員以外の親族は、6.4 ポイント、友人・知人 6.9 ポイントそれぞれ増加している。また、「相談したりする人はいない」は 3.3%で、1.8 ポイント減少した。

心配ごとや悩みごとができた場合、誰に話を聞いてもらったり相談したりするのかの、「その他」の回答は以下のようなものがあった。

- 自分で考える（41 名）
 - シルバーピアの職員（3 名）
 - 政治家（2 名）
- 他

図 10-16 心配ごとや悩みごとの相談相手（複数回答）



（注）*は12年調査には選択肢がなかったもの

性別でみると、男性は「世帯員」が 66.9%、女性が 53.0%で、ともに割合が最も高いが 13.9 ポイント男性が高い。「世帯員以外の親族」は男性の方が女性より 12.0%低い。また、男性は「専門家（弁護士や医師等）」「行政機関の相談窓口」「民生委員」に相談する割合が女性よりも高く、専門知識がある相手に相談する傾向がみられる。（表 10-27）

年齢階級別でみると、どの年齢階級でも世帯員が最も多いが、友人・知人や行政機関の相談窓口は年齢が高いほど割合が下がっていく。

世帯構成（世代別）でみると、単身世帯（ひとりぐらし）では「相談したりする人はいない」が 8.2%で、他の世帯構成（世代別）と比べ高い割合になっている。

表 10-27 心配ごとや悩みごとの相談相手（複数回答）

－性、年齢階級、世帯構成（世代別）

		総 数	世 帯 員	親世 族帯 員以 外の	友 人、 知 人	隣 近 所 の 人	談 行 政 機 関 の 相 談 窓 口	民 生 委 員	ホ ー ム ケ ア マ ネ ジ ャー	士 専 門 家 （ 弁 護 士 、 医 師 等 ）	そ の 他	る 相 談 は し た り い す	み 心 ご と は な い や 悩 み	無 回 答
総数		100.0 (4,583)	59.2	39.2	21.1	3.0	5.5	2.1	1.9	11.0	1.2	3.3	8.4	1.5
性 別	男	100.0 (2,052)	<u>66.9</u>	<u>32.6</u>	17.5	2.4	<u>6.7</u>	<u>2.6</u>	1.6	<u>14.1</u>	1.3	3.4	8.4	1.8
	女	100.0 (2,531)	<u>53.0</u>	<u>44.6</u>	24.1	3.5	<u>4.4</u>	<u>1.8</u>	2.1	<u>8.5</u>	1.1	3.2	8.4	1.2
年 齢 階 級 別	65～69歳	100.0 (1,279)	<u>64.7</u>	34.5	<u>29.1</u>	2.8	<u>7.6</u>	2.3	0.9	13.0	1.3	2.7	7.1	1.0
	70～74歳	100.0 (1,335)	<u>61.3</u>	39.7	<u>23.4</u>	3.5	<u>5.5</u>	2.2	1.5	11.9	1.5	4.2	7.1	1.0
	75～79歳	100.0 (955)	<u>56.0</u>	42.9	<u>20.5</u>	3.0	<u>4.5</u>	1.9	2.2	11.1	0.9	3.1	9.1	1.4
	80～84歳	100.0 (617)	<u>53.3</u>	41.0	<u>10.2</u>	2.9	<u>4.1</u>	2.3	3.9	7.3	1.0	3.1	10.4	2.1
	85歳以上	100.0 (397)	<u>51.6</u>	41.1	<u>6.3</u>	1.8	<u>2.8</u>	1.8	2.5	7.3	0.5	2.8	12.1	3.8
世 帯 構 成 （ 世 代 別 ）	単身世帯 （ひとりぐらし）	100.0 (863)	－	55.4	29.0	4.5	7.1	3.0	3.0	10.4	1.9	<u>8.2</u>	10.7	1.4
	一世代世帯 （夫婦のみ）	100.0 (1,700)	73.3	41.6	19.1	2.6	6.1	2.6	1.5	12.5	1.1	<u>1.5</u>	7.2	1.2
	二世代世帯 （親と子）	100.0 (1,294)	73.3	31.8	20.4	2.9	4.6	1.5	1.8	10.8	1.2	<u>3.0</u>	7.3	1.6
	三世代世帯 （親と子と孫）	100.0 (619)	74.0	25.5	16.8	2.3	3.1	1.3	1.1	8.1	0.6	<u>1.8</u>	11.0	1.6

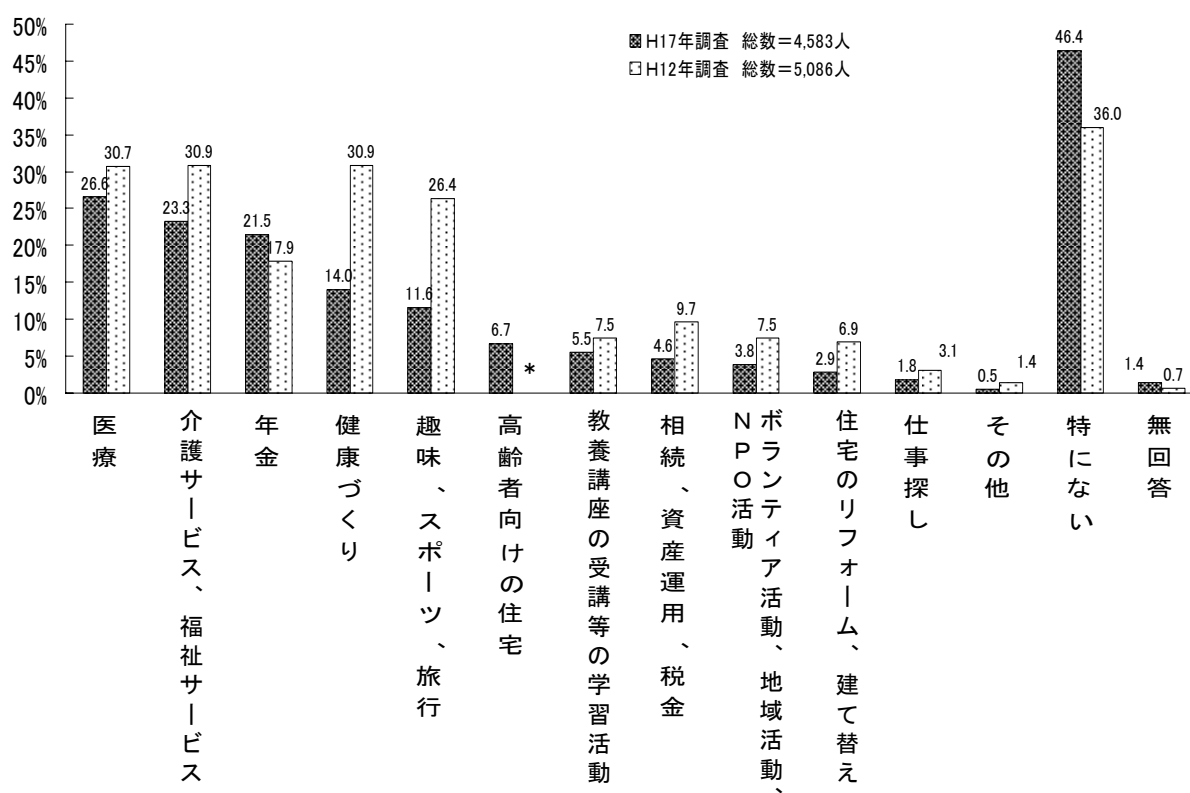
5 情報

(1) 必要とする情報

欲しい情報は、「医療」がトップ、次いで「介護サービス・福祉サービス」「年金」と続いている。

生活に関する情報でもっとほしい情報を尋ねたところ、欲しい情報では「医療」が26.6%と最も多く、次いで「介護サービス・福祉サービス」が23.3%、「年金」が21.5%が続いている。一方で「特にない」も46.4%と5割近くであった。(図10-17)

図10-17 必要とする情報(複数回答)



(注) *は12年調査には選択肢がなかったもの

年齢階級別でみると、年齢が若いほど必要とする情報の割合も高くなり、より多くの情報を求めていることがうかがえる。（表 10-28）

地域別でみると、市町村部のほうが区部より、住宅のリフォーム、建て替えを除く各情報を必要とする割合が高く、「特にない」は 4.8 ポイント低い。

世帯構成（世代別）でみると、単身世帯（ひとりぐらし）の高齢者は、「介護サービス・福祉サービス」が 22.0%と高い。一世代世帯（夫婦のみ）は、「医療」が 30.8%と高くなっている。

表 10-28 必要とする情報（複数回答）－性、年齢階級、地域、世帯構成（世代別）

		総数	年金	医療	介護サービス、福祉	健康づくり	住宅のリフォーム、建て替え	高齢者向けの住宅	趣味、スポーツ、旅行	教養講座の受講等の学習活動	ボランティア活動、地域活動、NPO活動	仕事探し	相続、資産運用、税金	その他	特にない	無回答
総数		100.0 (4,583)	21.5	26.6	23.3	14.0	2.9	6.7	11.6	5.5	3.8	1.8	4.6	0.5	46.4	1.4
性別	男	100.0 (2,052)	23.4	28.8	21.7	14.4	3.3	5.9	13.7	6.2	4.6	2.3	6.3	0.7	44.4	1.6
	女	100.0 (2,531)	19.9	24.7	24.6	13.7	2.5	7.3	9.8	4.9	3.2	1.4	3.2	0.3	48.0	1.2
年齢階級別	65～69歳	100.0 (1,279)	26.0	32.0	24.5	17.6	4.2	7.6	17.3	7.5	6.3	4.1	5.0	0.6	<u>39.4</u>	1.2
	70～74歳	100.0 (1,335)	24.0	28.2	25.7	15.7	2.8	8.7	12.0	6.0	4.2	1.9	4.4	0.7	<u>41.7</u>	0.7
	75～79歳	100.0 (955)	19.2	26.3	23.1	12.0	2.5	6.7	9.2	4.4	2.5	0.4	5.2	0.3	<u>46.7</u>	1.7
	80～84歳	100.0 (617)	15.4	19.3	19.6	10.4	2.1	4.1	6.8	3.7	1.6	－	3.9	0.5	<u>58.8</u>	1.6
	85歳以上	100.0 (397)	13.6	15.4	17.4	6.8	0.8	1.3	4.8	2.5	1.3	0.3	3.3	－	<u>64.7</u>	3.5
地域別	区部	100.0 (3,073)	<u>20.9</u>	<u>25.6</u>	<u>21.6</u>	<u>13.3</u>	3.3	<u>6.5</u>	<u>11.3</u>	<u>5.3</u>	<u>3.7</u>	<u>1.8</u>	<u>4.4</u>	<u>0.6</u>	<u>48.0</u>	1.3
	市・町・村部	100.0 (1,510)	<u>22.6</u>	<u>28.5</u>	<u>26.6</u>	<u>15.3</u>	2.1	<u>7.2</u>	<u>12.1</u>	<u>5.9</u>	<u>4.0</u>	<u>1.9</u>	<u>5.0</u>	<u>0.4</u>	<u>43.2</u>	1.5
世帯構成（世代別）	単身世帯（ひとりぐらし）	100.0 (863)	19.0	21.7	<u>22.0</u>	12.3	1.4	11.0	8.6	6.4	3.5	2.2	2.7	0.3	49.6	0.7
	一世代世帯（夫婦のみ）	100.0 (1,700)	23.7	<u>30.8</u>	25.9	14.9	2.9	7.2	12.2	5.8	4.1	1.4	5.6	0.7	41.4	1.2
	二世帯世帯（親と子）	100.0 (1,294)	21.5	26.7	22.8	14.9	4.1	5.3	12.8	4.9	3.8	2.6	4.9	0.4	47.4	1.9
	三世帯世帯（親と子と孫）	100.0 (619)	18.7	22.1	19.1	11.1	1.9	1.9	11.1	4.4	3.4	1.1	3.9	0.5	54.0	1.6

必要とする情報の入手方法については、「仕事探し」以外のすべての情報について、公的施設（行政機関の窓口等）からの入手の割合が高く、その中でも「医療」と「介護サービス、福祉サービス」は4割を超えている。（表 10-29）

表 10-29 必要とする情報（複数回答）－情報の入手方法（複数回答）別

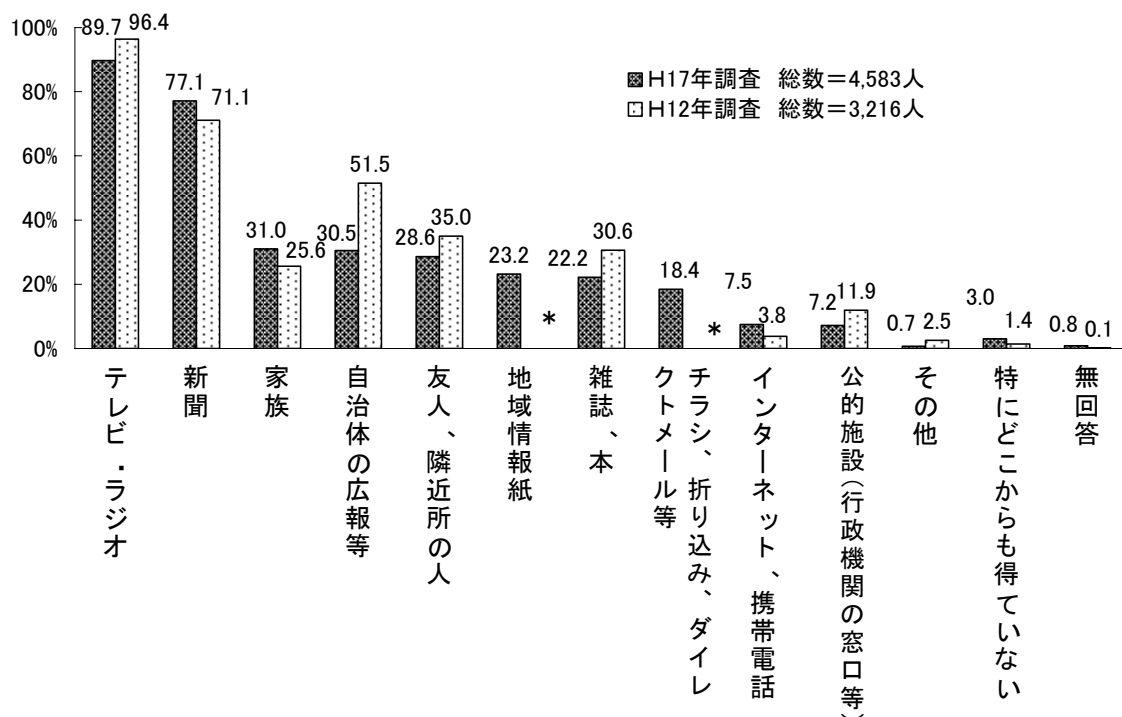
		総 数	年 金	医 療	介 護 サ ー ビ ス	健 康 づ く り	住 宅 の リ フ ォ ー ム 、 建 て 替 え	高 齢 者 向 け の 住 宅	趣 味 、 ス ポ ー ツ 、 旅 行	教 養 講 座 の 受 講 等 の 学 習 活 動	ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 、 N P O 活 動	仕 事 探 し	相 続 、 資 産 運 用 、 税 金	そ の 他	特 に な い	無 回 答
総数		100.0 (4,583)	21.5	26.6	23.3	14.0	2.9	6.7	11.6	5.5	3.8	1.8	4.6	0.5	46.4	1.4
情 報 の 入 手 方 法 別	テレビ・ラジオ	100.0 (4,111)	22.7	27.9	24.3	14.9	3.1	6.7	12.3	5.7	3.8	1.8	4.9	0.5	45.1	0.8
	新聞	100.0 (3,534)	23.6	29.5	25.2	16.0	3.3	6.8	13.6	6.6	4.5	1.8	5.3	0.5	43.6	0.7
	地域情報紙	100.0 (1,061)	29.3	39.5	34.5	24.2	5.6	9.0	18.9	11.2	7.9	2.5	6.9	0.8	34.8	0.4
	チラシ、折り込み、ダイレクトメール等	100.0 (845)	26.6	38.6	32.9	23.6	5.6	10.1	22.5	10.9	7.6	2.8	6.0	0.7	38.6	0.4
	家族	100.0 (1,422)	23.9	32.8	27.0	19.6	4.2	5.6	15.3	7.2	5.0	1.6	5.8	0.4	46.3	1.0
	友人、隣近所の人	100.0 (1,313)	22.7	30.8	28.7	20.4	3.9	8.2	17.9	7.9	6.2	2.4	6.1	0.6	43.3	0.3
	インターネット、携帯電話	100.0 (343)	23.9	38.5	27.1	18.7	5.2	6.4	20.1	14.3	7.9	2.0	10.8	0.9	36.2	0.6
	雑誌、本	100.0 (1,018)	23.5	34.7	28.0	22.9	4.7	8.7	22.6	13.4	7.9	2.1	8.2	0.6	38.7	0.8
	自治体の広報等	100.0 (1,399)	26.7	36.6	32.2	21.7	5.0	8.5	18.3	10.4	7.6	2.3	7.4	0.5	37.1	0.5
	公的施設(行政機関の窓口等)	100.0 (328)	<u>30.5</u>	<u>42.7</u>	<u>40.5</u>	<u>28.0</u>	<u>7.6</u>	<u>12.2</u>	<u>25.0</u>	<u>16.2</u>	<u>14.3</u>	2.4	<u>12.5</u>	0.3	31.7	-
	特にどこからも得ていない	100.0 (138)	1.4	1.4	3.6	0.7	-	3.6	1.4	-	-	-	0.7	-	89.1	-

(2) 情報の入手方法

情報は、9割近くが「テレビ・ラジオ」、8割弱が「新聞」から得ている。「インターネット・携帯電話」も増加。

ふだんの生活に関する情報をどこから得ているのか尋ねたところ、「テレビ・ラジオ」が89.7%と最も多く、次いで「新聞」77.1%、「家族」31.0%、「自治体の広報等」30.5%と続いている。また、「インターネット・携帯電話」が7.5%と、12年調査と比べると2倍近く増加している。(図 10-18)

図 10-18 情報の入手方法（複数回答）



(注) * は 12 年調査には選択肢になかったもの

性別でみると、女性は、「友人、隣近所の人」が 35.0%で男性より 14.1 ポイント高い。一方で男性は、「インターネット・携帯電話」が 11.9%で女性より 8.0 ポイント高い。（表 10-30）

年齢階級別でみると、すべての年齢階級で「テレビ・ラジオ」が最も割合が高く、次に「新聞」となっている。

表 10-30 情報の入手方法（複数回答）—性、年齢階級、世帯構成（世代別）

		総数	テレビ・ラジオ	新聞	地域情報紙	チラシ・折り込み等、ダイレクトメール等	家族	友人、隣近所の人	インターネット、携帯電話	雑誌、本	自治体の広報等	公的施設（行政機関の窓口等）	その他	特になどからも得ていない	無回答
総数		100.0 (4,583)	89.7	77.1	23.2	18.4	31.0	28.6	7.5	22.2	30.5	7.2	0.7	3.0	0.8
性別	男	100.0 (2,052)	89.7	83.0	22.6	16.5	27.8	<u>20.9</u>	<u>11.9</u>	25.0	32.8	7.9	0.5	2.7	1.1
	女	100.0 (2,531)	89.7	72.3	23.6	20.0	33.7	<u>35.0</u>	<u>3.9</u>	20.0	28.6	6.5	0.8	3.3	0.6
年齢階級別	65～69歳	100.0 (1,279)	<u>92.2</u>	<u>83.2</u>	25.0	22.5	32.7	32.6	13.7	26.7	34.6	8.2	0.7	1.9	0.6
	70～74歳	100.0 (1,335)	<u>90.9</u>	<u>79.6</u>	26.5	19.3	29.7	31.9	7.3	23.7	33.1	8.4	0.6	2.3	0.2
	75～79歳	100.0 (955)	<u>89.8</u>	<u>77.5</u>	25.2	17.3	30.9	28.1	5.4	21.6	31.1	6.8	0.9	2.6	0.9
	80～84歳	100.0 (617)	<u>87.0</u>	<u>68.2</u>	16.2	14.6	29.2	22.4	2.3	16.2	23.8	5.2	0.5	5.2	1.1
	85歳以上	100.0 (397)	<u>81.6</u>	<u>62.0</u>	11.6	11.1	33.2	16.1	1.0	13.4	17.9	3.5	0.5	6.5	2.8
世帯構成（世代別）	単身世帯（ひとりぐらし）	100.0 (863)	87.6	64.1	20.2	15.6	12.9	32.7	4.6	17.7	26.3	7.5	1.7	4.4	0.6
	一世代世帯（夫婦のみ）	100.0 (1,700)	91.0	84.2	25.7	20.1	31.6	26.3	9.7	25.0	34.9	7.1	0.3	1.9	0.5
	二世世代世帯（親と子）	100.0 (1,294)	89.9	78.5	23.3	19.6	36.9	29.5	8.7	23.7	30.1	8.2	0.5	2.9	0.9
	三世世代世帯（親と子と孫）	100.0 (619)	88.7	73.8	20.2	17.0	42.8	28.8	3.7	18.9	26.7	4.8	0.5	3.9	1.6

動作能力類型別でみると、「テレビ・ラジオ」からの情報の入手は、どの類型別の高齢者でも最も高い割合である。また、ねたきり等（ねたきり高齢者、ねたきりに近い高齢者）の高齢者や比較的重い障害のある高齢者は、情報を「特にどこからも得ていない」が、総数の3.0%に比べ5ポイント以上高い割合になっている。（表10-31）

表 10-31 情報の入手方法（複数回答）－動作能力類型別

		総 数	オ テ レ ビ ・ ラ ジ オ	新 聞	地 域 情 報 紙	ク ダ チ メ ー ル 等	家 族	の 友 人 、 隣 近 所	ト イ ン タ ー ネ ッ ト 、 携 帯 電 話	雑 誌 、 本	等 自 治 体 の 広 報	公 的 施 設 （ 行 政 機 関 の 窓 口 等 ）	そ の 他	も 特 に ど こ か ら も 得 て い な い	無 回 答
総数		100.0 (4,583)	89.7	77.1	23.2	18.4	31.0	28.6	7.5	22.2	30.5	7.2	0.7	3.0	0.8
動作能力類型別	ねたきり等の高齢者	100.0 (381)	78.0	45.9	9.7	10.2	34.4	12.1	1.6	9.7	16.5	3.9	1.0	8.7	4.7
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (93)	87.1	57.0	15.1	4.3	30.1	17.2	6.5	11.8	14.0	5.4	－	8.6	1.1
	軽い障害のある高齢者	100.0 (810)	88.9	71.7	16.4	16.0	33.6	23.8	3.2	18.6	26.9	5.9	0.6	3.1	0.2
	障害のない高齢者	100.0 (3,299)	91.3	82.6	26.6	20.4	30.0	32.1	9.2	24.8	33.5	7.9	0.7	2.2	0.5

年収別でみると、「テレビ・ラジオ」、「新聞」からの情報の入手は、どの収入別でも高いが、「インターネット、携帯電話」は、700万円以上になると2割を超え、低収入の高齢者との差が大きい。（表10-32）

表 10-32 情報の入手方法（複数回答）－年収別

		総 数	テ レ ビ ・ ラ ジ オ	新 聞	地 域 情 報 紙	ダ イ レ ク ト メ ー ル 等	家 族	友 人 、 隣 近 所 の 人	携 帯 電 話	イ ン タ ー ネ ッ ト 、 携	雑 誌 、 本	自 治 体 の 広 報 等	公 的 施 設 （ 行 政 機 関 の 窓 口 等 ）	そ の 他	特 に ど こ か ら も 得 て い な い	無 回 答
総数		100.0 (4,583)	89.7	77.1	23.2	18.4	31.0	28.6	7.5	22.2	30.5	7.2	0.7	3.0	0.8	
年 収 別	50万円未満	100.0 (411)	89.8	68.9	23.6	17.5	36.3	28.7	2.7	17.5	25.1	4.4	0.7	2.7	1.0	
	50万円以上100万円未満	100.0 (781)	89.4	71.6	24.8	19.7	34.6	32.9	2.6	19.7	29.2	6.5	0.3	3.8	0.4	
	100万円以上150万円未満	100.0 (588)	88.8	65.6	20.4	17.7	29.8	29.8	3.7	16.8	30.6	8.0	0.3	3.9	1.7	
	150万円以上200万円未満	100.0 (462)	89.8	76.4	21.2	20.3	24.9	30.3	3.5	17.3	28.6	8.9	0.9	3.5	1.3	
	200万円以上250万円未満	100.0 (496)	90.5	79.6	22.2	15.1	28.4	25.6	6.9	17.9	28.8	6.5	0.4	2.8	0.6	
	250万円以上300万円未満	100.0 (497)	91.3	86.5	27.6	19.3	29.6	25.6	9.3	26.6	38.2	8.2	1.0	1.8	0.4	
	300万円以上500万円未満	100.0 (646)	90.2	87.0	26.3	18.4	28.8	27.1	13.0	28.0	33.9	8.2	0.6	2.6	0.5	
	500万円以上700万円未満	100.0 (205)	88.8	84.9	18.0	22.9	32.2	28.8	19.5	34.1	37.1	5.9	1.5	2.0	0.5	
	700万円以上1, 000万円未 満	100.0 (122)	87.7	90.2	17.2	20.5	41.8	26.2	20.5	35.2	36.9	7.4	-	1.6	-	
	1, 000万円以上	100.0 (142)	89.4	85.2	21.1	19.0	35.9	26.8	23.2	35.2	27.5	3.5	1.4	2.1	1.4	

社会参加と意識に関して寄せられた意見・要望の内訳は、以下のとおりである。

情報の提供	29 件
社会参加	27 件
心配ごと	12 件

【寄せられた意見・要望の一部の紹介】

- 福祉保健行政に関する情報を全ての人々に伝えられるような努力を常に今以上にしてほしい。まだまだ伝わっていない場合が多く、知らないでいるために、折角の福祉行政が生かされていない場合が多々ある。(女性・70代)
- 介護予防についての情報は「冊子」でほしい。大きな字で分かりやすく説明されたもの。インターネットは利用しないので、一冊あれば皆でまわし読みできる。(女性・60代)
- 色々な面で今までの経験を生かして、高齢者パワーを発揮していけたらいいと思う。報酬は安くてよい。社会奉仕をしたい気持ちがあるがどうやって始めたらよいかわからない。(男性・60代)
- 小さい力しかありませんがボランティアをしたい。自分も忙しい中でのボランティアと考えているので、自分ができることや時期(時間等も)を連絡し、それを利用したい人がすぐ見ることができるシステムがあると良いのではないのでしょうか。小さい組織をつくり、その組織のネットワークを作り広めると、小さい力でも誰かが利用して下さるとその人にとっては大きな力になるのではないのでしょうか。区に登録してのボランティアも良いのですが少し敷居が高いように感じています。(女性・60代)
- 福祉(ボランティア)などの活動をする時に公共の施設などの利用を無料にしてほしい。(女性・60代)
- 25才で両耳が失聴しました。年を取っていろいろな行事に参加したいと思いますが、コミュニケーションがむずかしい面もあり、仲間の中に(健聴者)入りにくい面もあります。市などで行っている行事にそうした人のためにお世話下さる(筆談してくださる方)をお願いできれば楽しく老後を過ごせると思います。折り紙教室とか太極拳とか参加したいと思った時、筆記して下さったり、助けて下さる方がいらっしゃると助かります。(女性・60代)
- 首都大学の古典講座に通っているが倍率が高い。もっと下げてほしい。(女性・70代)
- 子供がいないので一人になってからのことが心配。安否確認等の支援があると安心。(男性・60代)
- 地震などが起きた時不安。避難場所へ行けるかどうか、避難場所で足手まといにならないか、また意地悪されないか。(男性・70代)

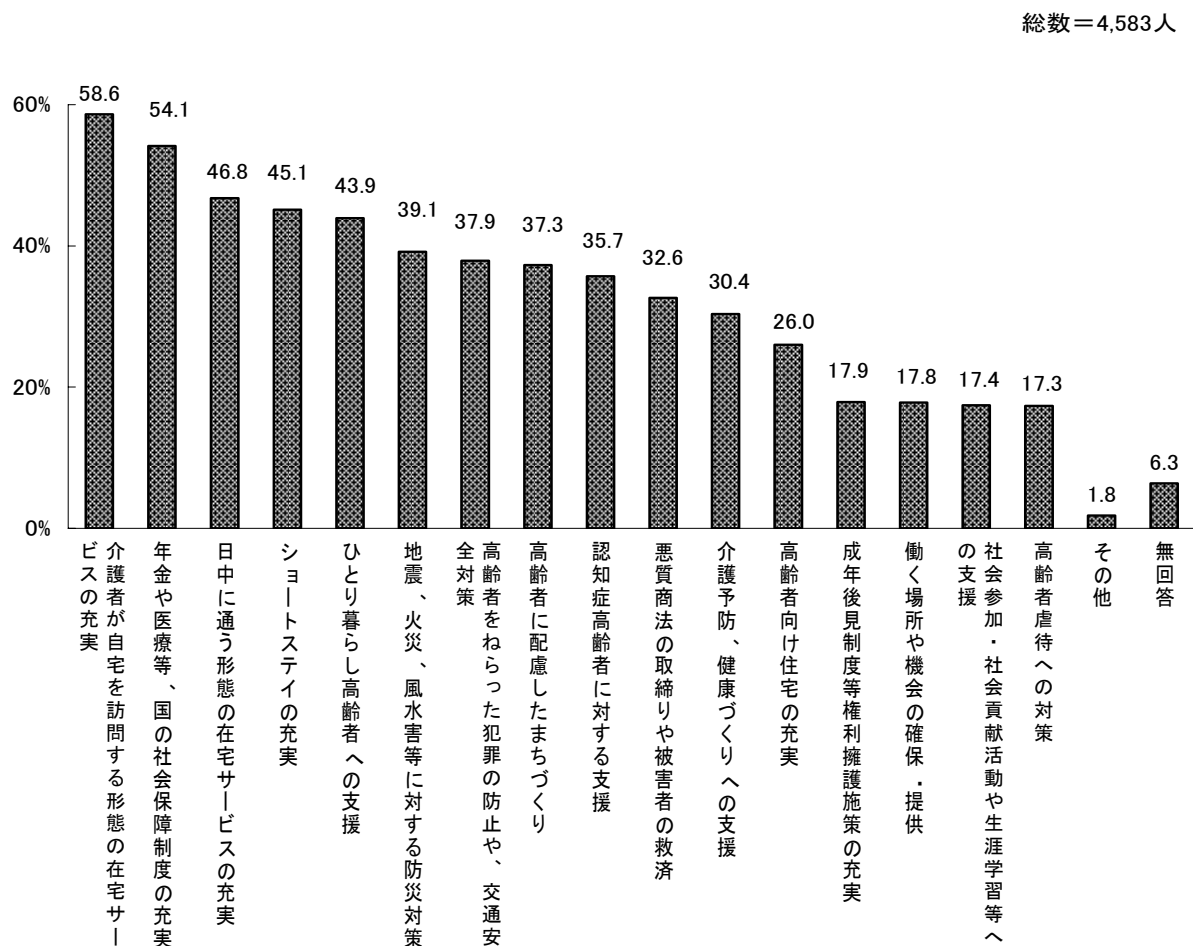
第11章 東京都への要望等

1 高齢者に対する必要な施策や支援

高齢者に対する施策や支援で大切だと思うものは、「介護者が自宅を訪問する形態の在宅サービスの充実」がトップで6割弱。

大切だと思う高齢者に対する施策や支援は何かと尋ねたところ、「介護者が自宅を訪問する形態の在宅サービスの充実」が58.6%で最も多く、次いで「年金や医療等、国の社会保障制度の充実」54.1%、「日中に通う形態の在宅サービスの充実」46.8%と続いている。「ショートステイの充実」が45.1%、「ひとり暮らし高齢者への支援」も43.9%とそれぞれ4割を超えており、在宅サービスの充実をあげる人が多い結果となっている。（図11-1）

図11-1 高齢者に対する必要な施策や支援（複数回答）



地域別でみると、「地震、火災、風水害等に対する防災対策」を除くすべての選択肢で、市・町・村部が区部よりも高い割合となっている。特に「認知症高齢者に対する支援」は、市・町・村部（42.1%）が区部（32.5%）よりも9.6ポイント高くなっている。（表11-1）

世代別でみると、ひとりぐらし高齢者では、「ひとりぐらし高齢者への支援」（53.0%）「高齢者向け住宅の充実」（30.4%）が他の世帯構成に比べて高い割合となっている。

表 11-1 高齢者に対する必要な施策や支援（複数回答）

－性・年齢階級、地域、世帯構成（世代別）

		総数	介護者が自宅を訪問する形態の在宅サービスの充実	年金や医療等、国の社会保障制度の充実	日中通う形態の在宅サービスの充実	ショートステイの充実	ひとり暮らし高齢者への支援	地震、火災、風水害等に対する防災対策	高齢者をねらった犯罪の防止や、交通安全対策	高齢者に配慮したまちづくり	認知症高齢者に対する支援	救済・救済商法の取締りや被害者の支援	介護予防、健康づくりへの支援	高齢者向け住宅の充実	成年後見制度等権利擁護施策の充実	働く場所や機会の確保・提供	社会参加・社会貢献活動や生涯学習等への支援	高齢者虐待への対策	その他	無回答
総数		100.0 (4,583)	58.6	54.1	46.8	45.1	43.9	39.1	37.9	37.3	35.7	32.6	30.4	26.0	17.9	17.8	17.4	17.3	1.8	6.3
性・年齢階級別	男	100.0 (2,052)	57.7	55.7	45.2	44.0	43.7	38.5	37.6	36.2	36.2	33.1	31.9	26.0	18.6	20.9	18.9	18.0	2.1	6.6
	65～74歳	100.0 (1,255)	57.0	59.3	46.7	45.6	46.7	39.0	38.6	37.3	38.8	35.4	35.1	28.2	20.2	25.6	21.7	19.8	2.2	5.3
	75歳以上	100.0 (797)	59.0	49.9	42.9	41.4	39.0	37.5	36.1	34.5	32.0	29.6	26.9	22.6	15.9	13.4	14.6	15.3	2.1	8.5
	女	100.0 (2,531)	59.3	52.9	48.0	46.1	44.1	39.7	38.1	38.2	35.3	32.2	29.1	26.0	17.3	15.3	16.2	16.8	1.5	6.2
	65～74歳	100.0 (1,359)	62.8	60.5	52.1	53.4	49.3	44.7	43.0	42.2	42.1	37.3	34.6	32.2	21.6	21.0	21.3	20.8	1.4	3.4
	75歳以上	100.0 (1,172)	55.3	44.1	43.3	37.5	38.0	34.0	32.5	33.4	27.4	26.4	22.8	18.9	12.5	8.7	10.4	12.1	1.7	9.4
地域別	区部	100.0 (3,073)	55.7	51.7	43.9	42.3	41.3	<u>39.7</u>	37.2	36.8	<u>32.5</u>	31.7	27.9	25.4	16.5	17.6	16.5	15.8	1.9	7.3
	市・町・村部	100.0 (1,510)	64.5	59.0	52.6	50.9	49.1	<u>38.0</u>	39.3	38.3	<u>42.1</u>	34.6	35.4	27.3	20.7	18.1	19.4	20.5	1.7	4.5
（世代別） 世帯構成	単身世帯（ひとりぐらし）	100.0 (863)	57.9	46.3	41.4	32.6	<u>53.0</u>	35.3	33.6	33.5	24.4	28.6	22.5	<u>30.4</u>	15.6	14.0	12.7	12.1	1.9	6.5
	一世代世帯（夫婦のみ）	100.0 (1,700)	61.3	56.0	49.5	49.9	44.4	41.5	40.2	39.4	39.8	34.9	34.1	26.3	19.4	18.9	18.9	19.4	1.8	5.0
	二世代・三世帯世帯	100.0 (1,913)	59.9	59.0	49.3	49.1	41.8	41.0	39.9	39.2	39.0	34.3	32.3	25.2	18.6	19.6	19.2	18.9	1.9	7.8

2 自由意見

東京都の福祉保健行政に関して、意見や要望を自由に書いてもらったところ、726 件の意見・要望が寄せられた。以下の表は、寄せられた意見・要望を各章の内容に沿って分類したものである。

表 11-2 意見・要望の分類

分類	紹介頁	件数
家族	第 2 章 P32	7
医療・健康	第 3 章 P51	84
介護サービス・介護保険制度	第 6 章 P91	107
認知症・成年後見制度等	第 7 章 P101	19
住宅	第 8 章 P124	79
就業・経済	第 9 章 P145	114
情報提供・社会参加等	第 10 章 P187	68
高齢者に対する必要な施策や支援	第 11 章 P191	193
その他		55
	計	726

※意見・要望の一部については、各章の最後の頁に紹介してある。「高齢者に対する必要な施策や支援」は、他の章に分類されなかった意見・要望を集めた。また、「その他」としては、本調査の調査方法への意見等があった。

※自由意見欄に記入しているのは本人だけでなく、親族なども含まれる。

高齢者に対する必要な施策や支援について寄せられた意見・要望の内訳は、次のとおりである。

都の福祉保健施策の充実・改善	115 件
高齢者施策のあり方について	24 件
子ども・若者への教育について	9 件
交通機関への要望（バリアフリー等）	24 件
治安・防犯対策の充実	6 件
その他	15 件

【寄せられた意見・要望の一部の紹介】

- 問 42（高齢者に対する必要な施策や支援）に書かれていることは大事なことで、これからももっと充実して我々が安心して暮らせるようにお願いします。（女性・70代）
- 地域が活性化するような支援をお願いします。まずは個々人の自助努力が基本だと思いますが、周囲の僅かな手助けでもそれがあれば強力なサポートとなります。子供のうちから自然に手が差し伸べられるように家庭・地域・学校における福祉教育が必要だと思います。（女性・70代）
- 「地域で支えあうシステム」があれば行政負担も軽くなると思う。幼児と親、児童等と高齢者が交流できる場所、機会を提供して頂けるとありがたいです。（女性・70代）
- 障害者がいるので自分がいなくなったとき、障害者の介護が気軽に受けられるようにしてほしい。福祉施設に通っている子どもの将来が非常に心配なので、環境の良い終身生活できる施設が都内にほしいこととその費用が安いことを望む。（女性・70代）
- 福祉保健行政に関して統一された相談ないしは連絡の窓口（例えば 110 番や 119 番に類するような）を早急に用意していただきたい。（男性・80代）
- 調査の結果を有効に生かしてください。（男性・80代）
- 少数意見かも知れませんが、現在の高齢者は施設が充実して、概ね恵まれていると思います。むしろ次世代を見据えた少子化対策、具体的には乳幼児の保育、親の負担を出来るだけ軽減する行政に重点を置いて頂きたい。そのためには高齢者用を削減してでも少子化対策を優先させるべきである。（男性・80代）
- 高齢者に対することは今のままでよい。もっとこれからの世代の人々のために何かいろいろやるべきである。子供のことにしても物質的より精神的面でもっと人間らしく育ててほしい。その為の何かが出来ないかと思う。（男性・70代）

- 道路が車道の方に斜めなので車椅子を押すのが難しい。またほんの少しの段差でもつまづく。点字ブロックが大切なのは分っていますが、すべったり車が進まなかったりする。(女性・80代)
- 高齢者を狙ったどろぼう、悪質商法、ひったくりに対する安全対策をしてほしい。(女性・70代)
- 福祉とは「幸せづくり」です。その「幸せ」は何か保護してやるというような視点ではなく、「幸せ」自体が何であるかをはっきりさせる事だと思います。保護や義務意識では「幸せ」は成就しないと思います。高齢者観を見直し、高齢者も一個の人間として若者と同じようにご本人の意識と努力によってのみ「幸せ」はできると思います。「高齢者だから何かやって貰うのが当然だ」という様な考えを排し、高齢者自身が自分の健康作りをはじめ生きがいに通じる精神構造を確立する必要があります。行政は高齢者のその自発性を大事にし、支援し助成する事が本務だと思います。(男性・70代)